

令和 3 年度 行政評価結果報告書



一宮市

令和 3 年 9 月

目次

1	一宮市の行政評価	1
2	ねらい	1
3	評価対象	1
4	評価方法	2
5	施策評価の結果	4
6	事業評価の結果	7
7	市民から見た評価	8
8	施策評価シート	10
参考	アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について	86

1 一宮市の行政評価

複雑・多様化した市民ニーズや地域特有の課題、社会潮流の変化に対応するために、本市の目指す方向性と取組を施策として明示した「第7次一宮市総合計画」が平成30年度からスタートしました。

本市の行政評価は、この「第7次一宮市総合計画」の進捗管理を行い、計画の目標を達成することを主な目的とし、計画に掲げられた施策および施策に関連する事業の評価を行います。

これらの評価結果に基づき、必要な改善策を検討・実施し、PDCAサイクルを運用していくことで、「第7次一宮市総合計画」を効果的かつ効率的に実現していきます。

2 ねらい

(1) 効果的かつ効率的な市政の追求

限られた財源のもとで、第7次一宮市総合計画を実現するため、業務の手段や進め方を絶えず点検・改善し、効果的かつ効率的な行政経営を行います。

(2) 説明責任の向上

成果をできる限り客観的かつ論理的にわかりやすく検証することにより、市政の透明性を高めます。

(3) 職員の意識改革

職員一人一人が、自分の仕事の目的と成果を常に念頭に置き、コスト意識を持って仕事を行います。

3 評価対象

第7次一宮市総合計画の施策と、施策に関連する事業を対象とします。

(1) 施策評価

第7次一宮市総合計画に掲げられた全35施策を対象とします。

(2) 事業評価

各施策に関連する事業として、令和2年度実施計画に掲載した476事業（延べ数）を対象とします。

4 評価方法

(1) 施策評価

施策の進み具合を測るために設定した「成果指標」と、市民アンケート調査等により市民の体感を問う「市民の体感指標」の現状値を毎年度把握し、その評価結果を組み合わせ「施策の評価結果」とします。

ア 成果指標による評価

前期基本計画における個々の成果指標の進捗状況を、基準値、令和2年度の現状値および目標値の3つの数値から算定し、「A」～「D」の4段階で評価します。なお、基準値、現状値および目標値については次のとおりです。

- 基準値：平成28年度中に把握した数値
- 現状値：計画の進捗管理のため、毎年度把握する数値
- 目標値：前期基本計画の最終年度である令和4年度の目標となる数値

施策に複数の成果指標がある場合は、個々の成果指標の評価結果に基づいて、施策の成果指標の評価結果「A」～「D」にまとめます。なお、成果指標が1つの施策は、その指標の評価結果をもって、施策の成果指標の評価とします。

【成果指標による評価結果の内容】

A	目標値に向けて、良好に推移している
B	目標値に向けて、概ね良好に推移している
C	目標値に向けて、低調に推移している
D	目標値に対して、悪化している

イ 市民の体感指標による評価

前期基本計画における市民の体感指標の推移状況を、長期的推移（基準値との比較）と短期的推移（前年度現状値との比較）の関係から「a」～「d」の4段階で評価します。なお、長期的推移と短期的推移の把握においては、アンケート調査による標本誤差を考慮します。

【市民の体感指標による評価結果の内容】

a	基準値および前年度現状値と比較して、良好に推移している
b	基準値および前年度現状値と比較して、概ね良好に推移している
c	基準値および前年度現状値と比較して、低調に推移している
d	基準値および前年度現状値と比較して、悪化している

ウ 施策評価

成果指標の評価結果「A」～「D」と、市民の体感指標の評価結果「a」～「d」を並べて「Aa」（最高評価）～「Dd」（最低評価）の16段階で評価します。さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「Da」または「Ad」）が生じていないかを確認します。

（2）事業評価

以下の3つの観点に基づいて評価します。

観点	内容
必要性	<ul style="list-style-type: none">事業の性質からみて、市が関与する必要があるか社会環境や市民ニーズ等から、事業を実施することが妥当か施策目的から、事業を実施することが妥当か
有効性	<ul style="list-style-type: none">事業活動の状況からみて、事業の目標を達成しているか
効率性	<ul style="list-style-type: none">コストの状況からみて、前年度と比較して、効率的に事業を進めているか

必要性の評価結果は、「○」（必要性あり）、「要検討」のいずれかとなります。有効性の評価結果は、「★★★」（目標を達成）、「★★」（目標を概ね達成）、「★」（改善が必要）の3段階となります。また、実施できなかった事業など、評価できない事業は「-」（評価不能）としています。効率性の評価結果は、「★★★」（前年度と比較して効率が上がった）、「★★」（前年度と比較して概ね変わらなかった）、「★」（前年度と比較して効率が下がった）の3段階となります。また、前年度と内容が大きく変わった事業など、評価できない事業は「-」（評価不能）としています。

5 施策評価の結果

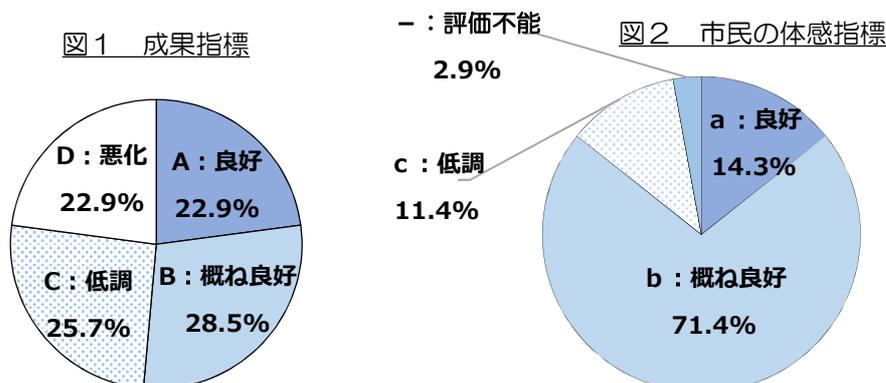
(1) 概要

全 35 施策のうち、成果指標の評価結果は、「A：良好」が 8 施策（22.9%）、
「B：概ね良好」が 10 施策（28.5%）、「C：低調」が 9 施策（25.7%）、「D：
悪化」が 8 施策（22.9%）という結果になりました（図1参照）。

また、市民の体感指標の評価結果は、「a：良好」が 5 施策（14.3%）、「b：概
ね良好」が 25 施策（71.4%）、「c：低調」が 4 施策（11.4%）、「d：悪化」は
無し、「-：評価不能」が 1 施策（2.9%）、という結果になりました（図2参照）。

施策別の評価結果の一覧は、5頁「施策評価の結果一覧表」の通りです。

また、各施策の評価結果の詳細については、各施策評価シートに記載していま
す。



(2) 改善計画等

評価結果に応じて、施策の今後の方向性・改善計画を検討しました。特に、評
価結果が「D：悪化」となった 8 つの施策については、成果指標の現状値の早
急な改善を目指して、関係課全体で改善計画を検討・推進していきます。

施策の改善計画等は、各施策評価シート「10. 今後の方向性・改善計画」に
記載しています。

施策評価の結果一覧表

Plan/ Manag ement	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan 1	1	健康寿命の長いまちづくりに取り組みます	D	b	Db
	2	安心して子育てができる環境をつくります	B	b	Bb
	3	適切な医療を受けられる体制を整えます	A	b	Ab
	4	高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します	B	b	Bb
	5	障害者福祉の充実を図ります	A	a	Aa
Plan 2	6	ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します	C	b	Cb
	7	地球温暖化防止に取り組みます	D	c	Dc
	8	環境教育を推進します	C	a	Ca
	9	水と緑を活かしたまちをつくります	D	c	Dc
	10	良好な生活環境を確保します	C	b	Cb
	11	総合的な住宅対策に取り組みます	B	b	Bb
	12	公共交通網の整備を進めます	D	b	Db
Plan 3	13	歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します	A	b	Ab
	14	災害に強い社会基盤整備を進めます	B	b	Bb
	15	自主防災力の向上を図ります	C	a	Ca
	16	火災や救急に対する体制の強化を進めます	C	b	Cb
	17	交通事故を減らす取組を進めます	A	b	Ab
Plan 4	18	防犯対策を進めます	A	b	Ab
	19	既存産業や次世代産業の育成を支援します	B	b	Bb
	20	意欲を持って働けるよう就労支援を進めます	C	b	Cb
	21	女性の活躍できる環境をつくります	C	b	Cb
	22	魅力があり持続的発展性のある農業を支援します	B	b	Bb
	23	幹線道路の整備を進めます	B	b	Bb

Plan/ Manag ement	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan5	24	子どもから青少年まで健全に育つ環境をつ くります	C	b	Cb
	25	学校教育施設を整備します	A	-	A-
	26	特色ある教育活動を実施します	B	b	Bb
	27	する・みる・ささえるスポーツ活動を支援 します	D	b	Db
	28	歴史・文化に親しめる環境を整えます	D	c	Dc
Manag ement 1	1	子育て世代に選ばれるまちをつくります	B	b	Bb
	2	訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつ くります	D	b	Db
Manag ement 2	3	健全な財政運営に努めます	B	a	Ba
	4	公共施設の適切な維持管理に努めます	C	b	Cb
	5	情報通信技術（ICT）を積極的に利活用し ます	A	b	Ab
	6	適切な情報発信を行います	A	a	Aa
	7	市民との協働を進めます	D	c	Dc

6 事業評価の結果

(1) 概要

必要性については、評価対象となる476事業（延べ数）のうち、必要性あり（「○」）が472事業（99.2%）、要検討が4事業（0.8%）という結果になりました。

有効性については、同476事業のうち、事業の目標を達成した事業（「★★★」）が215事業（45.2%）、目標を概ね達成した事業（「★★」）が192事業（40.3%）、目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）が52事業（10.9%）、評価不能の事業（「-」）が17事業（3.6%）という結果になりました。

効率性については、同476事業のうち、前年度と比較して効率が上がった事業（「★★★★」）が87事業（18.3%）、前年度と比較して概ね変わらなかった事業（「★★」）が181事業（38.0%）、前年度と比較して効率が下がった事業（「★」）が127事業（26.7%）、評価不能の事業（「-」）が81事業（17.0%）という結果になりました。

事業評価の結果は、各施策評価シートの「7. 施策実現に向けて実施した事業（実施計画に掲載した事業）とその評価結果」に記載しています。

(2) 改善計画

目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）について、原則として、次年度の評価結果を改善するための改善計画を検討・推進していきます。

また、事業の目標を達成した事業（「★★★★」）、目標を一部達成できなかった事業（「★★」）であっても、施策の評価結果が悪い場合には、成果指標を改善するために必要に応じて改善計画を検討・推進していきます。

事業の改善計画のうち、成果指標の評価結果の改善に効果があるものは、各施策評価シート「10. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

7 市民から見た評価

第7次一宮市総合計画の進み具合について、書面によるアンケートを実施しました。成果指標の評価結果が「D」の施策について、市に対する意見や提案などを記入いただきました。

意見や提案などの一部は、各施策評価シート「9. 市民から見た評価（アンケート回答者の一部へ意見聴取）」に記載しています。

8 施策評価シート

(1) 施策評価シートの見方(次頁と見開き)

第7次総合計画 令和3年度 施策評価シート

Plan 1 健やかにいきる

施策 1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① がん検診受診率 (%)	↗	28.6	27.3	27.1	26.5	25.6	45.0	D	
② 国民健康保険の特定保健指導の該当率 (%)	↘	11.2	11.1	11.3	11.3	11.1	10.9	C	

グラフ

評価結果

D

悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
健康に暮らしていると感じている人の割合	74.6	75.7	73.9	77.5	74.7	b	

グラフ

評価結果

b

概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発出される事態ともなった。公共施設は休館し、さまざまな事業や行事が中止となり、不要不急の外出を避け、人との距離を取る行動が推奨された。
 ・医療機関も緊急事態措置として、健診・がん検診等が一時休止とする事態もあった。

4. 指標の分析

成果指標	① コロナ禍において、市民が外出を控える傾向もあり、医療機関への受診控えにより、前年度現状値から0.9ポイント低下しており、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
	② 評価指標は令和元年度の法定報告値であり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていないため、前年度より0.2ポイント改善しており、目標値は達成していないが概ね順調に推移している。 令和2年度の法定報告値は未確定ではあるが、国保、後期の健診受診率・特定保健指導の実施率は減少しており、指標にも影響が出ると予想される。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

5. 施策評価

Db

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	A				
	D			Db	前回・今回
		d ← 体感指標 → a			
		成果指標と体感指標の乖離			
		なし			

成果指標と体感指標の評価結果が乖離している場合(「Ad」または「Da」の場合)に「あり」と記載しています(乖離の要因や必要に応じた改善計画は「10. 今後の方向性・改善計画」に記載)。※令和3年度は該当なし

各成果指標について、基準値、実績値、目標値、を記載しています。

また、各成果指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

市民の体感指標について、基準値、実績値を記載しています。

また、市民の体感指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

施策に影響を及ぼしていると考えられる社会的な兆しや動向、本市以外の主体の動きや影響について記載しています。

各成果指標と市民の体感指標について、分析を記載しています。

各成果指標の評価結果を「A」から「D」の4段階で記載しています。

各成果指標の評価結果をまとめ、「A」から「D」の4段階で記載しています。

市民の体感指標の評価結果を「a」から「d」の4段階で記載しています。

成果指標と市民の体感指標の評価結果を合せて施策の評価結果を「Aa」から「Dd」の16段階で記載しています。

施策の評価結果を視覚的に明らかにするため、マトリクス上に、前回と今回の評価結果を表示しています。

右上が目指す状態、左下が最低の状態です。

(前頁と見開き)

令和2年度実施計画に掲載した事業について、「事業展開の方向性」「事業名」「担当課」を記載しています。

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果						
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果			
			必要性	有効性	効率性	
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康支援課	○	★	★★★	
	健康づくり食生活改善推進事業	健康支援課	○	★★★	★★★	
	健康増進情報提供事業	保健総務課	○	★★★	★★	
	健康相談事業	健康支援課	○	★★	★★	
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	★★	
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	★	
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	★	
	がん検診事業	保健総務課	○	★★	★★	
	歯科健康診査事業	保健総務課	○	★★★	★★	
	骨髄移植ドナー支援事業	保健予防課	○	★★★	-	
感染症対策の推進	予防接種事業	保健予防課	○	★★★	★	
	結核予防事業	保健予防課	○	★★	★★	
	保健所設置準備事業	保健総務課	○	★★★	-	
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★	★	
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	○	-	-	

実施計画に掲載した事業について、事業評価の結果を記載しています。必要性は「○」または「要検討」の2段階評価、有効性と効率性は「★」～「★★★」の3段階評価です。評価できない事業は「-」としています。

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

必要性の評価結果が「要検討」の事業について、事業の見直しの内容を記載しています。

成果指標の評価結果が「D」の施策についてアンケートに回答した市民の意見や提案などを記載しています。

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 検診を定期的に案内しているのは評価できる。 ・ 健康づくりについての取組があまり周知されていないように感じる。 ・ コロナ禍でも、がん検診受診率をあげようという目標と取り組みはぜひ推進してほしい。こうした中で国保の特定保健指導の該当率を下げるのはなかなか難しいと思う。 ・ 健康診断などをしっかり受け、病気の早期発見・早期治療につなげるよう呼びかけるお知らせをどんどんしてほしい。

施策を推進していくための今後の方向性や改善計画について、施策に関連する主な事業の改善計画を含めて記載しています。

10. 今後の方向性・改善計画
<p>コロナ禍により、各種事業が中止となっており、生活習慣病の予防と早期発見・治療に重要な「特定健診・特定保健指導」や「がん検診」などに関する市民への啓発機会の少ない状況が続いている。しかしながら、「健康ひろば」をリニューアルした「保健所だより」での情報発信のほか、予防接種の案内時にがん検診を紹介する等、継続している各課の事業を活用し、引き続き健診(検診)の重要性を周知するとともに、エコハウス138などの施設を利用して定期的な運動を行うよう、市民の健康意識を高めることに努めていく。</p>

主担当部・課	関係課
保健所 保健総務課	保険年金課、保健予防課、健康支援課、施設管理課、スポーツ課

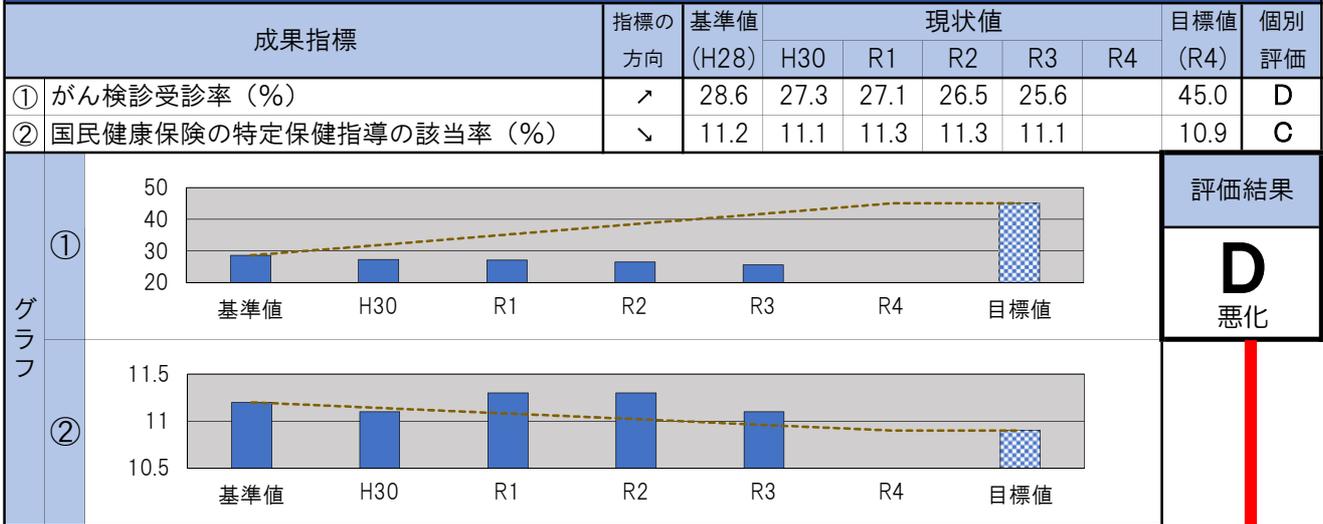
(2) 各施策の施策評価シート

全 35 施策の施策評価シートを次頁以降に掲載しています。

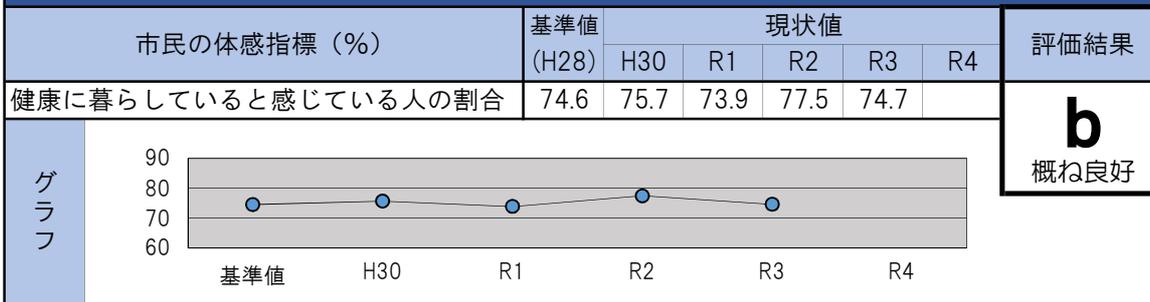
Plan 1 健やかにいきる

施策 1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発出される事態ともなった。公共施設は休館し、さまざまな事業や行事が中止となり、不要不急の外出を避け、人との距離を取る行動が推奨された。
 ・医療機関も緊急事態措置として、健診・がん検診等が一時休止とする事態もあった。

5. 施策評価

Db

4. 指標の分析

成果指標	① コロナ禍において、市民が外出を控える傾向もあり、医療機関への受診控えにより、前年度現状値から0.9ポイント低下しており、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
成果指標	② 評価指標は令和元年度の法定報告値であり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていないため、前年度より0.2ポイント改善しており、目標値は達成していないが概ね順調に推移している。 令和2年度の法定報告値は未確定ではあるが、国保、後期の健診受診率・特定保健指導の実施率は減少しており、指標にも影響が出ると予想される。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑成果指標			
D ↓成果指標			Db 前回・今回
	d	← 体感指標 →	a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果						
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果			
			必要性	有効性	効率性	
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康支援課	○	★	★★★★	
	健康づくり食生活改善推進事業	健康支援課	○	★★★★	★★★★	
	健康増進情報提供事業	保健総務課	○	★★★★	★★	
	健康相談事業	健康支援課	○	★★	★★	
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	★★	
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	★	
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	★	
	がん検診事業	保健総務課	○	★★	★★	
	歯科健康診査事業	保健総務課	○	★★★★	★★	
	骨髄移植ドナー支援事業	保健予防課	○	★★★★	-	
感染症対策の推進	予防接種事業	保健予防課	○	★★★★	★	
	結核予防事業	保健予防課	○	★★	★★	
	保健所設置準備事業	保健総務課	○	★★★★	-	
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★	★	
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	○	-	-	

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

- ・ 検診を定期的に案内しているのは評価できる。
- ・ 健康づくりについての取組があまり周知されていないように感じる。
- ・ コロナ禍でも、がん検診受診率をあげようという目標と取り組みはぜひ推進してほしい。こうした中で国保の特定保健指導の該当率を下げるのはなかなか難しいと思う。
- ・ 健康診断などをしっかり受け、病気の早期発見・早期治療につなげるよう呼びかけるお知らせをどんどんしてほしい。

10. 今後の方向性・改善計画

コロナ禍により、各種事業が中止となっており、生活習慣病の予防と早期発見・治療に重要な「特定健診・特定保健指導」や「がん検診」などに関する市民への啓発機会の少ない状況が続いている。しかしながら、「健康ひろば」をリニューアルした「保健所だより」での情報発信のほか、予防接種の案内時にがん検診を紹介する等、継続している各課の事業を活用し、引き続き健診(検診)の重要性を周知するとともに、エコハウス138などの施設を利用して定期的な運動を行うよう、市民の健康意識を高めることに努めていく。

主担当部・課
保健所 保健総務課

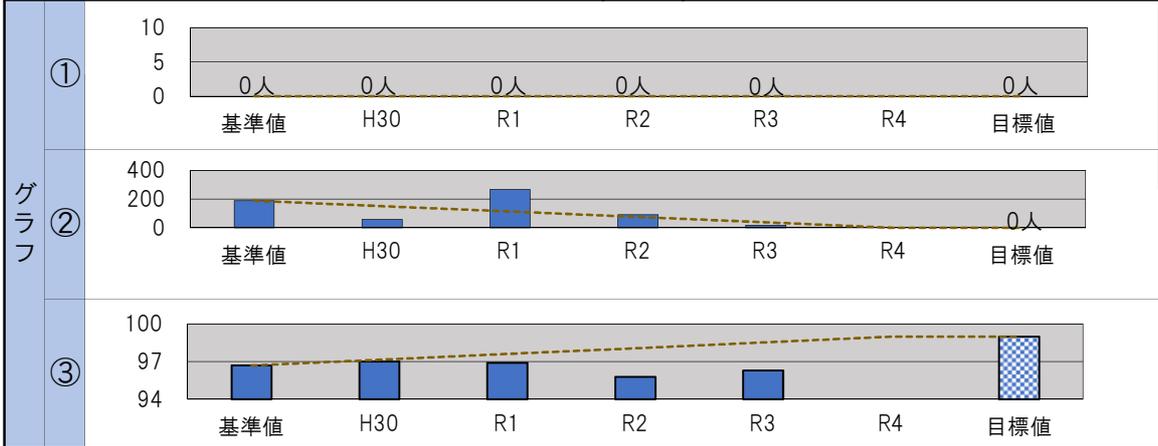
関係課
保険年金課、保健予防課、健康支援課、施設管理課、スポーツ課

Plan 1 健やかにいきる

施策2 安心して子育てができる環境をつくります

1. 成果指標による評価

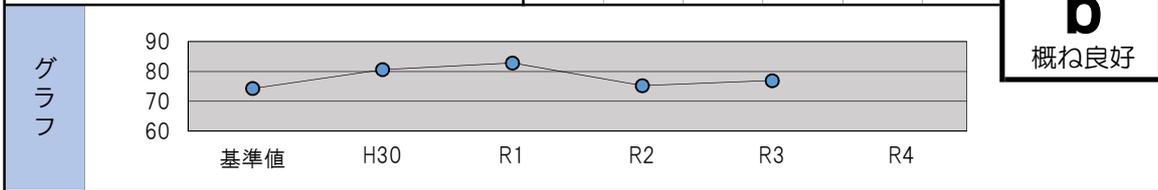
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 待機児童数（保育園）（人）	→	0	0	0	0	0	0	A	
② 待機児童数（放課後児童クラブ）（人）	↘	189	58	268	90	17	0	A	
③ 乳幼児健康診査の受診率（%）	↗	96.7	97.0	96.9	95.8	96.3	99.0	D	



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（%）	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
安心して子育てができていると思う人の割合	74.4	80.7	82.9	75.3	77.0	b 概ね良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・「子育て支援」や「働き方改革」が国においてもメインテーマになっている。
- ・少子化の進行や核家族化など社会情勢の変化や、働く女性の増加、職業・就労形態の多様化などにより、仕事と子育てを両立できる環境整備の必要性が高まっている。
- ・地域のつながりの希薄化から子育てに孤立感や不安感、負担感を抱く人が増えている。
- ・身近で気軽に相談ができ、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備が求められている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	保育園の施設整備や小規模保育事業所の開設および認定こども園の開所により、目標値0人を維持している。
	②	整備工事等により定員を増加させたこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用自粛があったことも相まって、前年度現状値から73人減少（改善）し、目標値に向けて良好に推移している。
	③	前年度現状値から0.5ポイント上昇しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で受診控えがあったため、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓ D	
	Bb 前回・今回
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
親と子どもの健康づくり	妊産婦健康診査事業	健康支援課	○	★★	★★
	乳幼児健康診査事業	健康支援課	○	★★★	★★
	不妊治療費・不育症検査費補助事業	保健総務課	○	★★★	★★★
	こんにちは赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康支援課	○	★★	★
	母子健康包括支援センター事業	健康支援課	○	★★	★
	予防接種事業	保健予防課	○	★★★	★
安心して楽しい子育ての推進	子ども医療費助成事業	保険年金課	○	★★★	★★★
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	健康支援課	○	★★	-
	子育て支援センター事業	保育課	○	★★	★
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	子育て支援課	○	★★★	★★★
	子ども一時預かり事業	保育課	○	★★	★
	児童手当支給事業	子育て支援課	○	★★★	★★
	児童遊園・ちびっ子広場管理事業	子育て支援課	○	★★	-
	児童館管理運営事業	子育て支援課	○	★★	★
	児童館の整備・充実事業	子育て支援課	○	★★★	-
	保育料減免事業	保育課	○	★★★	★★
	特別保育事業(一時保育)	保育課	○	★★★	★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★
	木曾川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★	★★
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★★	★★
子育て支援ネットワーク事業	生涯学習課	○	★★	★★★	
仕事と子育ての両立支援	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★	★
	放課後児童クラブ棟の整備事業	子育て支援課	○	★★★	-
	ファミリー・サポート・センター事業	保育課	○	★★★	★
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★★	★★★
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★	★
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★	★
	保育事業	保育課	○	★★	★★★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★	★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★	★
	医療的ケア児保育モデル事業	保育課	○	★★★	-
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★	★★★
放課後子ども教室事業	青少年課	○	★★	★★	
子ども・家庭の状況に応じた支援の充実	母子・父子家庭等医療費助成事業	保険年金課	○	★★★	★★★
	こんにちは赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康支援課	○	★★	★
	児童扶養手当支給事業	子育て支援課	○	★★★	★★
	一宮市遺児手当支給事業	子育て支援課	○	★★★	★★
	一宮市遺児一時金支給事業	子育て支援課	○	★★★	★★
	児童虐待防止推進事業	子ども家庭相談課	○	★	★
	子ども悩みごと相談事業	子ども家庭相談課	○	★★★	★
	母子生活支援施設入所相談事業	子ども家庭相談課	○	★	★
	高等職業訓練促進給付事業	子ども家庭相談課	○	★★★	★★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

10. 今後の方向性・改善計画

引き続き、仕事と子育てを両立できる環境整備を進めるとともに、子育てに対する孤立感や不安感、負担感を抱く人が1人でも少なくなるよう、気軽に相談できる体制、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備を進めていく。
改善計画としては、待機児童の解消に向けて、引き続き施設整備を計画的に進めていく。

主担当部・課

子ども家庭部 子育て支援課

関係課

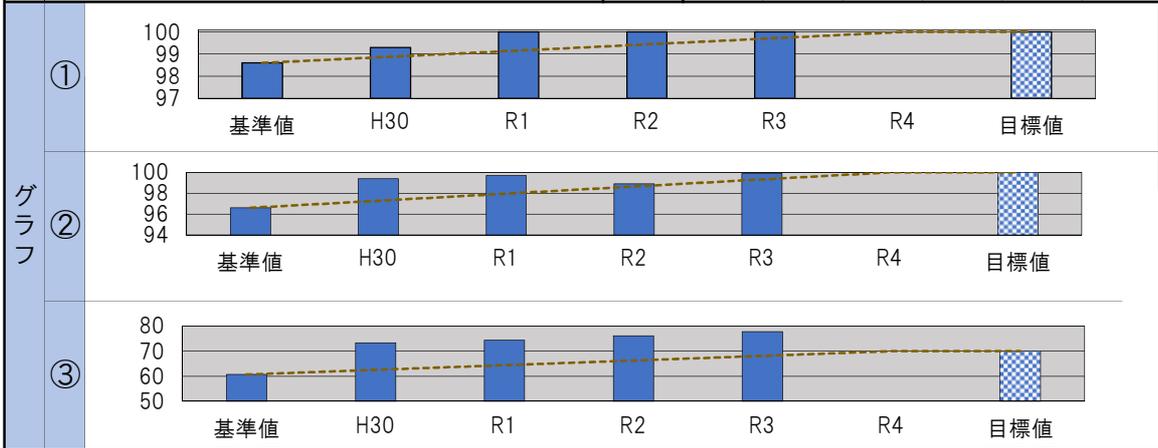
保険年金課、保健総務課、保健予防課、健康支援課、
子ども家庭相談課、保育課、青少年課、公園緑地課、生涯学習課

Plan 1 健やかにいきる

施策3 適切な医療を受けられる体制を整えます

1. 成果指標による評価

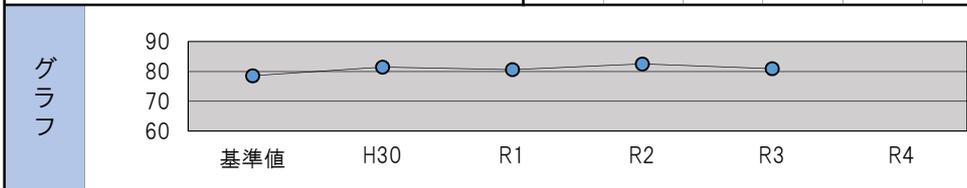
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市立病院の医師の充足率 (%)	↗	98.6	99.3	100	100	100.0	100	A	
② 市立病院の看護職員の充足率 (%)	↗	96.6	99.4	99.7	98.9	99.9	100	A	
③ 地域医療機関から市民病院への紹介率 (%)	↗	60.7	73.3	74.4	76.2	77.8	70.0	A	



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
自分に合った医療を受けていると思う人の割合	78.6	81.5	80.7	82.6	81.0	b 概ね良好	



b
概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルス感染症患者の受け入れと尾張西部医療圏の基幹病院として急性期医療を提供する役割を求められており、病院経営は厳しい状況が続くと懸念される。
- ・2024年4月より働き方改革による医師の時間外労働の上限規制が設けられるため、医師の時間外労働時間の把握及び削減のための取り組みが求められる。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	医局による医師派遣が継続されたため、引き続き目標値を達成している。
	②	前年度より離職者数が減少したため、前年度現状値から1.0ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	当院医師の同行を伴う開業医への訪問件数と患者からの電話予約が増加したため、前年度現状値から1.6ポイント上昇しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

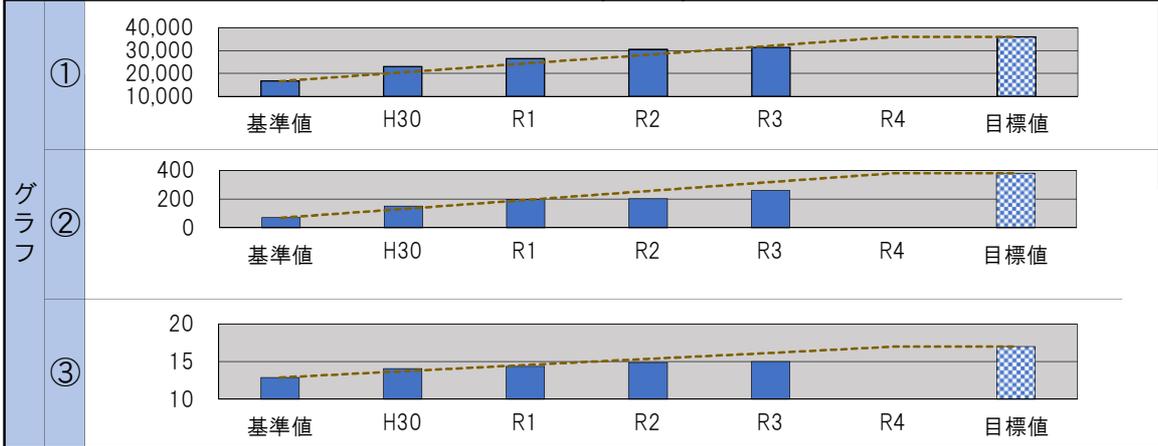
6. 進捗状況マトリクス	
	Ab 前回・今回
A	
↑ 成果指標 ↓	
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離なし	

Plan 1 健やかにいきる

施策4 高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します

1. 成果指標による評価

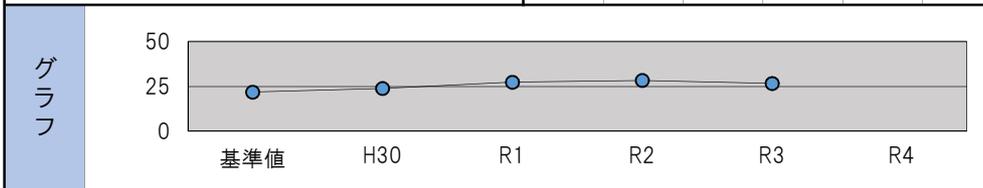
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 認知症サポーター養成講座の累積受講者数 (人)	↗	16,585	23,011	26,484	30,450	31,415		36,000	B
② 地域の高齢者が出かけたいような通いの場の箇所数 (か所)	↗	70	151	199	203	261		380	B
③ 65歳以上で介護サービスを利用している人の割合 (%)	↘	12.9	14.1	14.4	14.9	15.0		17.0	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
高齢者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	21.9	23.9	27.5	28.4	26.8		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・令和7年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症となる見込みのため、令和元年に認知症施策推進大綱が取りまとめられた。
- ・平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業が実施されるなど、介護予防の重要性が高まっている。
- ・高齢者施策において、地域包括ケアシステムを構築するように介護保険制度が改正された。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルスの影響で講座の申込が減少し、令和3年度は47回(令和2年度は97回)となった。目標値に向けた伸びはやや鈍化傾向である。
	②	通いの場事業の周知及び地域の通いの場の発掘を推進し、前年度現状値から58か所増加しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	③	介護予防事業の充実により、前年度現状値から0.1ポイントの上昇(悪化)に留めており、目標値以下の維持に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓		Ab 前回	
		Bb 今回	
D			
	d ← 体感指標 → a		

成果指標と体感指標の乖離
なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
住み慣れた地域で安心して暮らすための仕組みづくり	在宅医療・介護連携推進事業	高年福祉課	○	★★	★★
	認知症初期集中支援推進事業	高年福祉課	○	★★	★★
	認知症地域支援推進員設置事業	高年福祉課	○	★	★
	認知症サポーター養成講座事業	高年福祉課	○	★	★★★★
	家族介護用品給付事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	地域包括支援センター事業	高年福祉課	○	★★	★
	成年後見制度利用支援事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
	緊急連絡通報システム設置事業	高年福祉課	○	★★	★★
	配食サービス事業	高年福祉課	○	★★	★★
	ねたきり高齢者等見舞金支給事業	高年福祉課	○	★★	★★★★
	養護老人ホーム・生活支援ハウス事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
高齢期をいきいきと過ごすための介護予防と生きがいづくり	あんしん介護予防事業	高年福祉課	○	★★	★★
	生活支援体制整備事業	高年福祉課	○	★★	★
	就労支援・就労の場の確保事業	高年福祉課	○	★★	★★
	いきいきセンター事業	高年福祉課	○	★	★
	老人クラブ補助事業	高年福祉課	○	★★	★★
	シルバー入浴助成事業	高年福祉課	○	★★	★★★★
	敬老事業	高年福祉課	○	★★★★	★★
介護ニーズに対応するための介護保険事業の充実と適正化	適切な認定調査実施体制の確保事業	介護保険課	○	★★	★
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★★★	★★
	介護サービス事業者との連携事業	介護保険課	○	★★	-
	介護給付費適正化事業	介護保険課	○	★★★★	★★
	低所得者に対する市独自減免事業	介護保険課	○	★★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画
<p>新型コロナウイルスの影響で地域住民を対象とした事業や活動が制限されているが、現状では目標値に向けておおむね良好に推移していることから、現行事業を継続しつつ社会情勢の変化に対応した内容を検討していく。</p>

主担当部・課
福祉部 高年福祉課

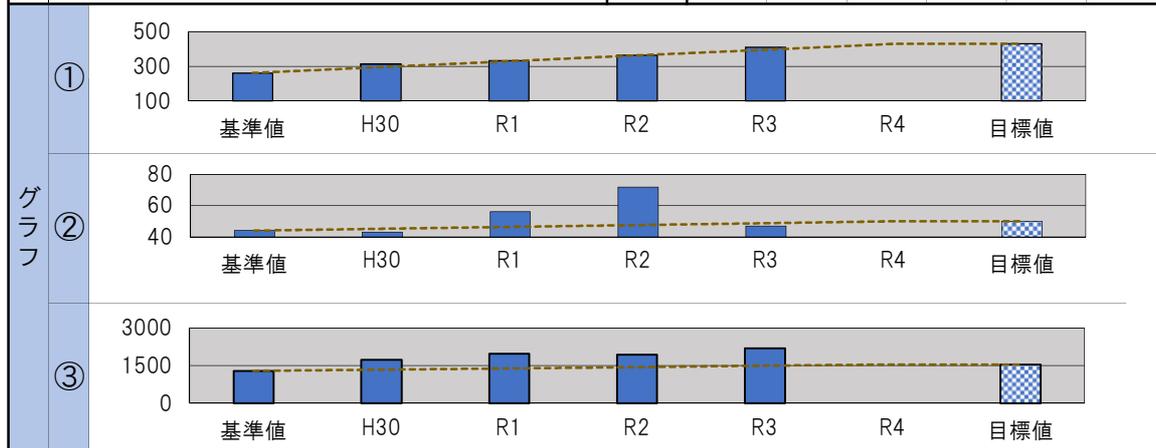
関係課
介護保険課

Plan 1 健やかにいきる

施策5 障害者福祉の充実を図ります

1. 成果指標による評価

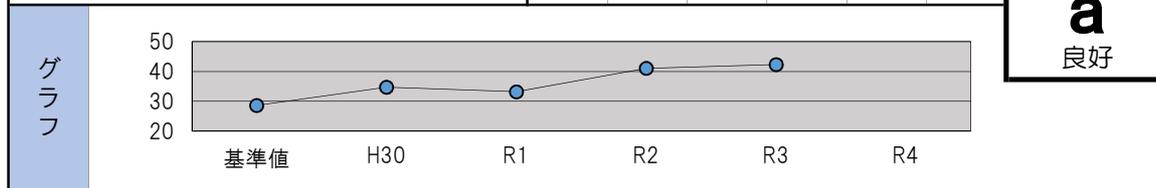
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① グループホームで生活している障害者の人数(人)	↗	262	313	334	364	411	430	A	
② 民間企業等へ就職した障害者の人数(人)	↗	44	43	56	72	47	50	B	
③ 療育支援を受けている障害児の人数(人)	↗	1,296	1,741	1,979	1,930	2,191	1,550	A	



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
障害者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	28.7	34.8	33.2	41.1	42.4	a 良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・施設入所者および長期入院者等の地域移行が推進されており、その受け皿としてグループホームは必要な社会資源となっている。
- ・事業主に対して、法定雇用率が平成30年度から引き上げられており、障害者雇用が推進されている。
- ・障害児の多様なニーズに的確に応えるため、サービスの必要見込み量等を定める障害児福祉計画の策定が義務化された。

5. 施策評価
Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	建設補助制度を活用するなど、グループホームが増えているため、前年度現状値から47人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	新型コロナウイルス感染症による雇用環境への影響などの要因により、前年度現状値から25人減少しているが、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	③	放課後デイサービス事業所等の社会資源が増えているため、前年度実績値から261人増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		障害福祉に関する情報提供や啓発の推進などにより、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ1.3ポイント、13.7ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス	
A	Aa 前回・今回
↑ 成果指標 ↓	
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
差別の解消及び権利擁護の推進	障害者虐待防止センター事業	福祉総合相談室	○	★★	★
	啓発事業	障害福祉課	○	-	-
	成年後見制度利用支援事業	福祉総合相談室	○	★★	★★
地域生活支援の充実	障害者医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	★★
	計画相談支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	共同生活援助(グループホーム)事業	障害福祉課	○	★★★★	★
	施設入所支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	共同生活援助支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	いずみ福祉園等指定管理事業	障害福祉課	○	★★	★★
	日常生活用具給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	補装具費給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	移動入浴委託事業	障害福祉課	○	★★	★★
	配食サービス事業	障害福祉課	○	★★	★★
	重度訪問介護事業	障害福祉課	○	★★	★★
	居宅介護事業	障害福祉課	○	★★	★
	同行援護事業	障害福祉課	○	★★	★★
	行動援護事業	障害福祉課	○	★★	★★
	移動支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	福祉タクシー料金助成事業	障害福祉課	○	★★	★★★★
	短期入所事業	障害福祉課	○	★★	★★
	日中一時支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	相談支援事業	福祉総合相談室	○	★★	★
	社会福祉施設建設補助事業	障害福祉課	○	★★	★★★★
	生活介護事業	障害福祉課	○	★★	★
	自立訓練事業(生活訓練)	障害福祉課	○	★★★★	★
	療養介護事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	地域活動支援センター事業	障害福祉課	○	★★	★★★★
	障害者手当給付事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	障害者自立支援医療(更生医療)給付事業	障害福祉課	○	★★	★
	高額障害福祉サービス費等給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	障害者通所交通費給付事業	障害福祉課	○	★★	★★
	障害者グループホーム建設補助事業	障害福祉課	要検討	★★★★	★★★★
雇用・就労の推進	就労移行支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	就労継続支援事業	障害福祉課	○	★★	★
	就労定着支援事業	障害福祉課	○	★★	★
療育・保育環境の充実	障害児相談支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	心身障害児親子通園事業(チューリップ教室・はとぼつぼ)	いずみ学園	○	★	★
	児童発達支援事業	障害福祉課	○	★★★★	★★
	放課後等デイサービス事業	障害福祉課	○	★★	★★
	保育所等訪問支援事業	障害福祉課	○	★★	★★
	療育サポート事業	福祉総合相談室	○	★	★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★
	児童発達支援センター事業	いずみ学園	○	★★	★★
	心身障害児親子通園事業(すぎの子教室・たけのこ園)	いずみ学園	○	★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容
障害者グループホーム建設補助事業(障害福祉課)	令和2年度末で事業を廃止。

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画

施策の実現に向けて、引き続き各事業を推進する。

主担当部・課

福祉部 障害福祉課

関係課

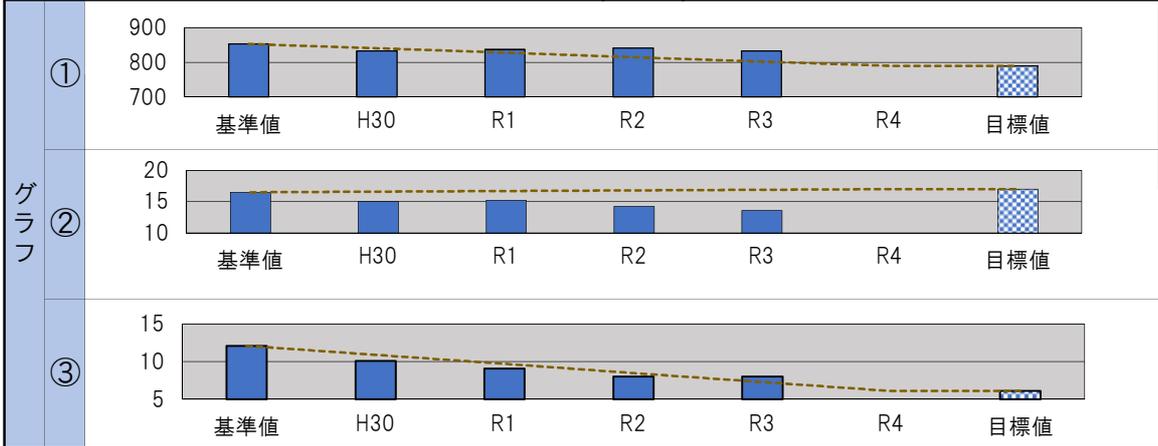
保険年金課、福祉総合相談室、保育課、いずみ学園

Plan 2 快適にくらす

施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

1. 成果指標による評価

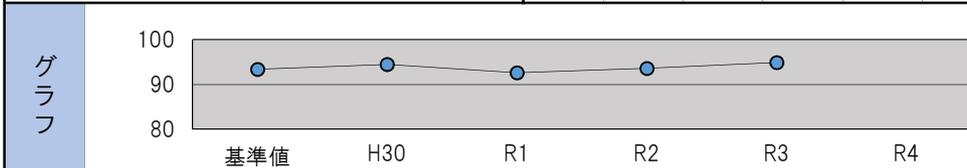
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市民一人あたり一日分のごみの排出量 (g)	↘	853	833	837	842	833	790	C	
② ごみのリサイクル率 (%)	↗	16.5	15.0	15.2	14.2	13.6	17.0	D	
③ 最終処分場の利用可能残余年数 (年)	↗	12.11	10.11	9.11	8.04	8.02	6.11	A	



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	93.4	94.5	92.6	93.6	94.9	b 概ね良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・環境破壊による地球温暖化や資源枯渇、資材高騰、国際情勢の影響からの資源物循環体制の悪化が話題となり、資源に対する関心は高くなっている。
- ・国では、資源の効率的な利用やリサイクルを進めることで環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することを目指している。
- ・家庭では、ごみと資源の分別に対する意識が定着し、リサイクルの重要性が認知されており、また、企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになっている。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	排出されるごみと資源が減少したが、前年度現状値から9gの減少(改善)にとどまり、目標値に向けて低調に推移している。
	②	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、拠点及び集団回収を自粛したこと、また、事業者(新聞販売店)による回収や民間の回収ボックスが設置されたことにより回収量が減少し、前年度現状値から0.6ポイント低下し、目標値から乖離している。
	③	効果的なごみ処理と資源化を進めるとともに、焼却残渣を民間最終処分場等へ搬出することにより、基準値から4年9月の減少にとどめており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	
	Cb 前回・今回
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
ごみの排出マナー・減量意識の向上	ごみ減量啓発事業	廃棄物対策課	○	★★	★★
	生ごみ処理機等購入補助事業	廃棄物対策課	要検討	★★★★	★★★★
	ごみ減量モニター事業	廃棄物対策課	○	-	★★★★
ごみの適正かつ効率的な処理	可燃ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	不燃ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	粗大ごみ収集事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	焼却施設運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	リサイクルセンター運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	リサイクルセンター火災復旧事業	施設管理課	○	★★★★	-
	最終処分場運転管理事業	施設管理課	○	★★★★	★★
	最終処分場延命化事業	施設管理課	○	★★	★★
資源のリサイクルの推進	資源回収事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	空き缶・金属類リサイクル事業	収集業務課	○	★★★★	★★
	プラスチック製容器包装リサイクル事業	収集業務課	○	★★	★★
	ペットボトルリサイクル事業	収集業務課	○	★★	★★
	小型家電リサイクル事業	収集業務課	○	★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容
生ごみ処理機等購入補助事業 (廃棄物対策課)	令和2年度末で事業を廃止。

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画
<p>新型コロナウイルスの影響で在宅時間が増えたことにより家庭ごみの増加が見込まれるが、冊子「ごみと資源の分け方・出し方辞典」や、ウェブアプリ「一宮市ごみチェッカー」、フェイスブック「ピンちゃん・カンちゃん」、YouTube「段ボールコンポストでごみを減らそう!」、広報等の媒体を活用して、ごみと資源の分別等の啓発活動をさらにすすめ、ごみの減量、リサイクル率の向上につなげていきたい。また、最終処分場の利用可能残余年数については、目標値に向けて良好に推移しているため、今後も現在のごみ処理等を継続していきたい。</p>

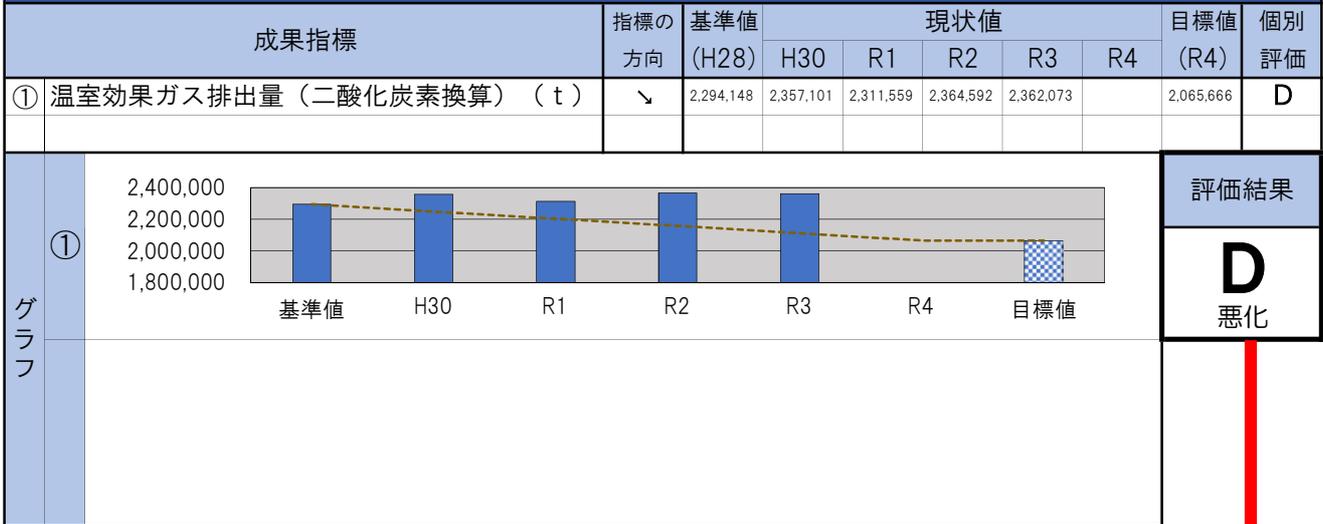
主担当部・課
環境部 廃棄物対策課

関係課
収集業務課、施設管理課

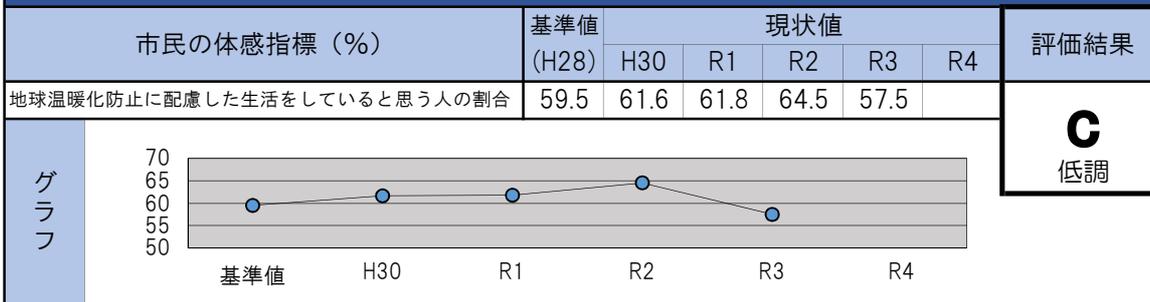
Plan 2 快適にくらす

施策7 地球温暖化防止に取り組みます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・日本は、パリ協定に定める目標（世界全体の気温上昇を2℃より十分下回るよう、更に1.5℃までに制限する努力を継続）等を踏まえ、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言した。
 ・そして、地域では、2050年カーボンニュートラルを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明する自治体が増加している。また、企業では、ESG金融の発展に伴い、気候変動に関する情報開示や目標設定など「脱炭素経営」に取り組む企業が増加し、サプライチェーンを通じて、地域の企業にも波及している。
 ・こうした状況を踏まえ、2021年6月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」の一部が改正された。

5. 施策評価

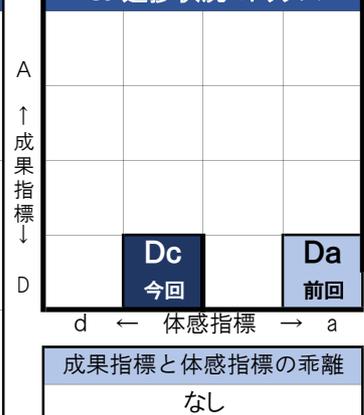
Dc

4. 指標の分析

① 産業部門・廃棄物部門・農業部門において温室効果ガス排出量が減少したため、前年度現状値から2,519 t 減少（改善）しているものの、依然として基準値より高い（悪化した）水準にあり、目標値から乖離している。

市民の体感指標 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により在宅時間の増加で、電気や空調を使用する頻度が増加し、また、どうしても外出しなければならない人が、“密”を回避するため公共交通機関を利用せず、自家用車等の利用増加のため、地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合が、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ7.0ポイント、2.0ポイント低下し、低調に推移している。

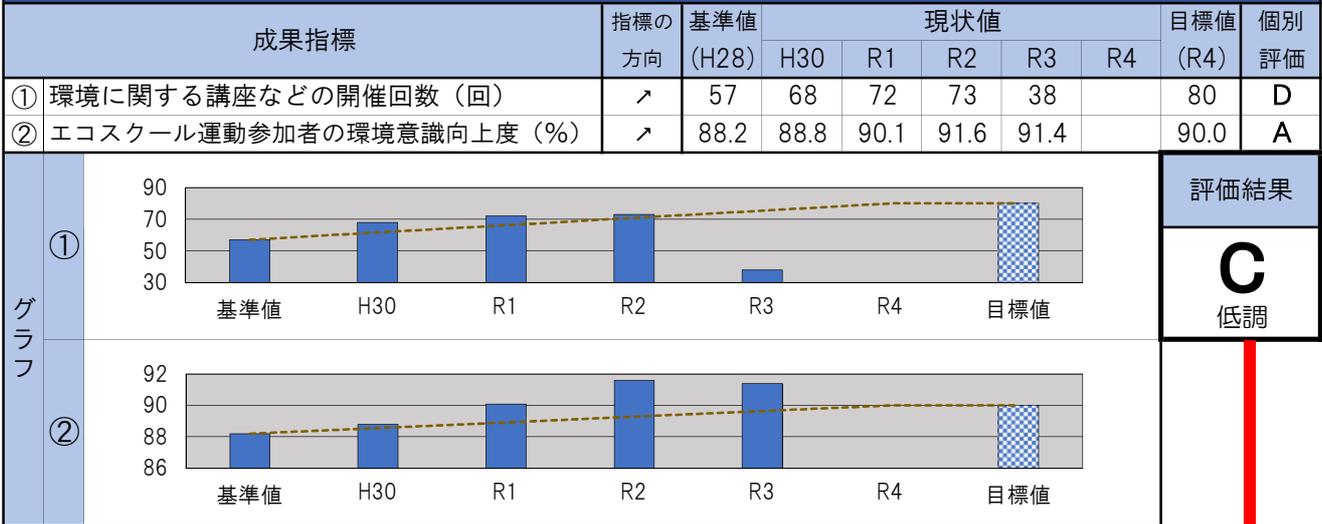
6. 進捗状況マトリクス



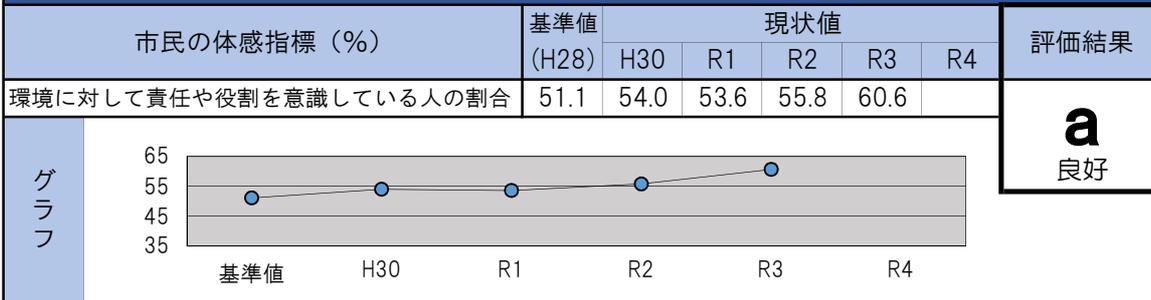
Plan 2 快適にくらす

施策8 環境教育を推進します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・世代ごとに特色を持たせた環境学習等の機会の拡充および連携・協働の推進が求められている。
- ・発達段階に応じた教育や学習機会を提供し、低炭素社会への理解を深める必要がある。
- ・指導者や専門的な技術、知識を持つ人材を育成する必要がある。

5. 施策評価

Ca

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルスの影響で講座などの開催中止のため、前年度現状値から35回減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離しているが、一時的である。
	②	新型コロナウイルスの影響で、環境意識向上のための学校での活動が減少したため、前年度現状値から0.2ポイント減少しているものの、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、概ね良好に推移していると判断する。

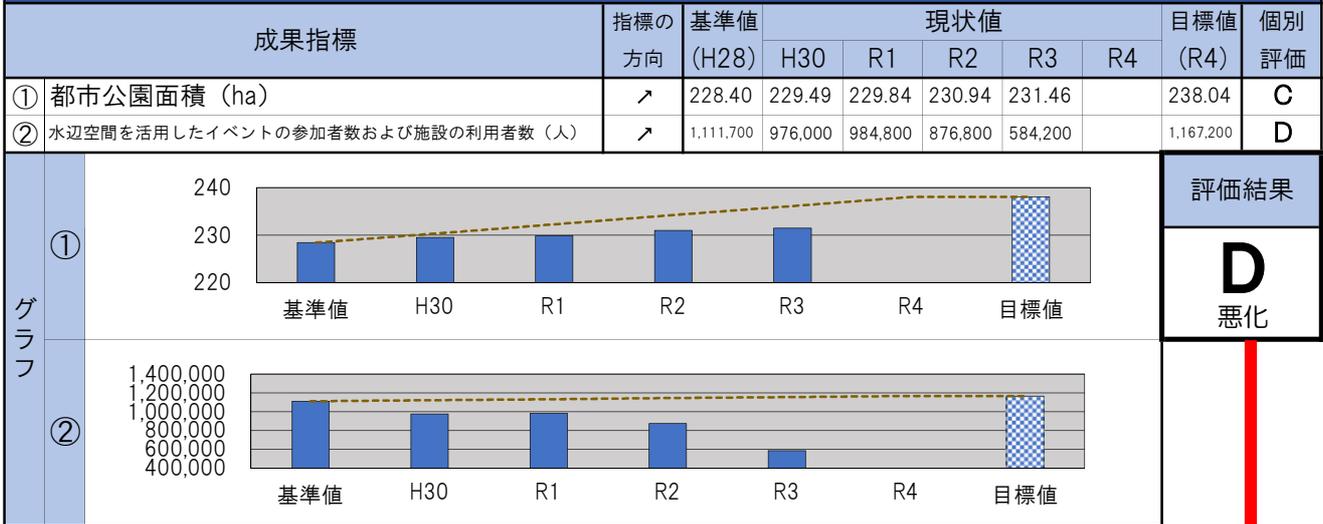
6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回	
A ↑ 成果指標			
			Ca 今回
D ↓ 成果指標			
		d ←	→ a 体感指標
成果指標と体感指標の乖離 なし			

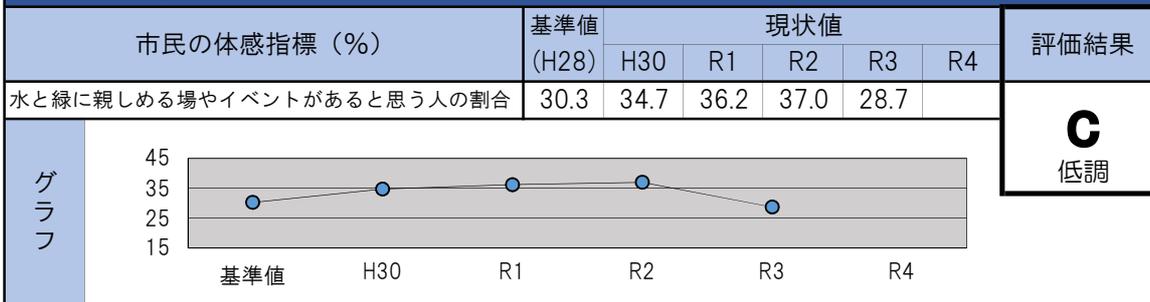
Plan 2 快適にくらす

施策9 水と緑を活かしたまちをつくります

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベントの規模縮小やイベントの開催自体を自粛せざるを得ない状況となった。

5. 施策評価

Dc

4. 指標の分析

成果指標	① 限られた財源の中での整備のため、前年度現状値から0.52haの増加にとどまり、目標値に向けて低調に推移している。
市民の体感指標	② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イベントの規模縮小やイベントの開催自体を自粛したことから、前年度現状値から292,600人減少し、目標値には程遠く、依然として基準値を下回っている。
市民の体感指標	イベントの規模縮小やイベントの開催自体を自粛しているため、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ8.3ポイント、1.6ポイント低下し、低調となった。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓			
D		Dc 今回	Da 前回
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
	木曽川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★	★★
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★	-
	ツインアーチ138維持管理事業	公園緑地課	○	★★	★
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	県営農業農村整備事業(遊歩道)	治水課	○	★★	★
民有地の緑化推進	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★★★	-
	入学記念樹配布事業	公園緑地課	○	★★★★	★
	民有地緑化推進補助事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進	都市公園・街路樹維持管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	市民参加による公園管理事業	公園緑地課	○	★★	★★
	市民ボランティアによる公園花壇管理事業	公園緑地課	○	★★	★
	花いっぱい運動事業	公園緑地課	○	★★	★
	ホテルも生息できる環境創出事業	公園緑地課	○	★★	★★
	県営農業農村整備事業(農業用水管)	治水課	○	★★	★★★★
	農業農村多面的機能支払補助事業	治水課	○	★★	★★
	北方地区基盤整備事業	治水課	○	★★★★	-
	単独土地改良事業	治水課	○	★★★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナが収束してきた際に、イベントを増やして欲しい。 ・新型コロナの影響で中止、廃止になったイベント、祭りの事態終息後の復活。 ・水域が豊富なので、今後も事業を進めてください。

10. 今後の方向性・改善計画
<p>引き続き、青木川河川敷公園や大江川緑道を始めとした都市公園等の整備を推進する。また、公園等の利用を促進させるために、新型コロナウイルス感染症対策を行いやすいイベントの立案を行い、安心・安全をアピールするとともに、新型コロナが収束した際には、多くの市民が参加できるイベントを開催していく。</p>

主担当部・課
まちづくり部 公園緑地課

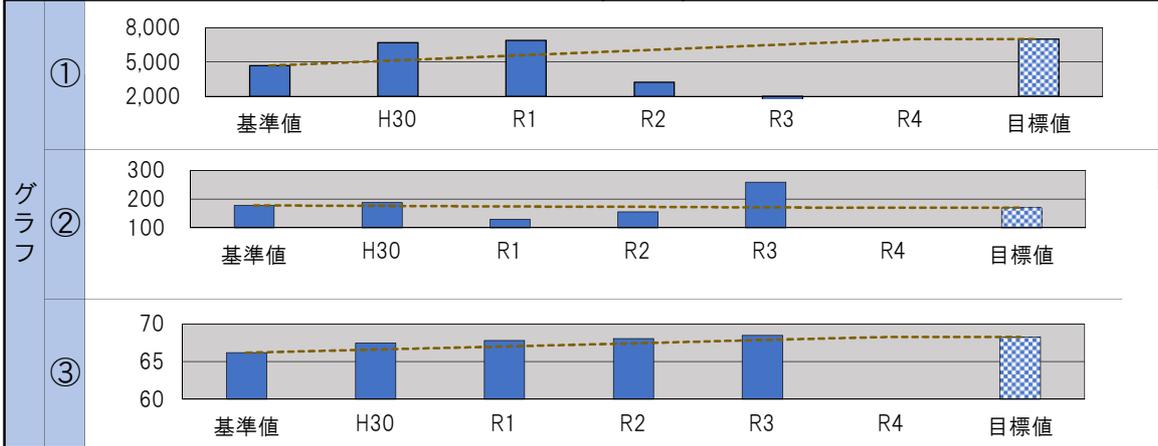
関係課
治水課

Plan 2 快適にくらす

施策10 良好な生活環境を確保します

1. 成果指標による評価

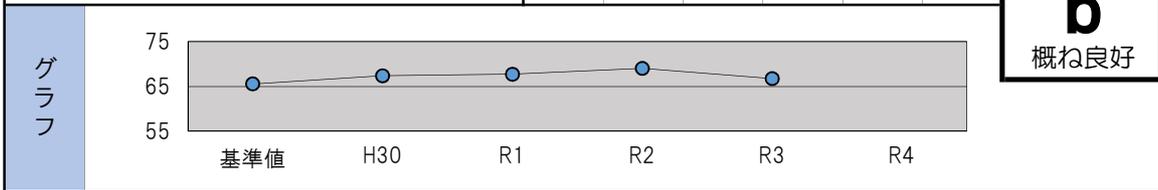
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数 (人)	↗	4,687	6,693	6,869	3,217	1,371		7,000	D
② 典型7公害の苦情件数 (件)	↘	178	188	130	156	259		170	D
③ 下水道普及率 (%)	↗	66.2	67.5	67.8	68.1	68.5		68.3	A



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
生活環境が良好であると思う人の割合	65.6	67.4	67.8	69.1	66.8		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・コロナ禍での活動の自粛、在宅時間の増加が顕著である。
- ・町内会や学校が主体となって通学路や生活道路周辺の清掃活動が定期的実施されるなど、環境美化に関する市民の意識が高まっている。
- ・騒音や悪臭の感じ方は、個々の感覚によるところが大きいので、案件によっては、規制基準内のレベルのものでも苦情として寄せられる。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	コロナ禍による自粛のため、清掃活動への参加が前年度実績値から1,846人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	コロナ禍により在宅時間が増加し、快適な生活環境の妨げになる事象に気づくことが増えたため、前年度実績値から103件増加(悪化)し、基準値を上回り、目標値から乖離している。
	③	汚水管の整備が進捗したため、前年度実績値から0.4ポイント増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

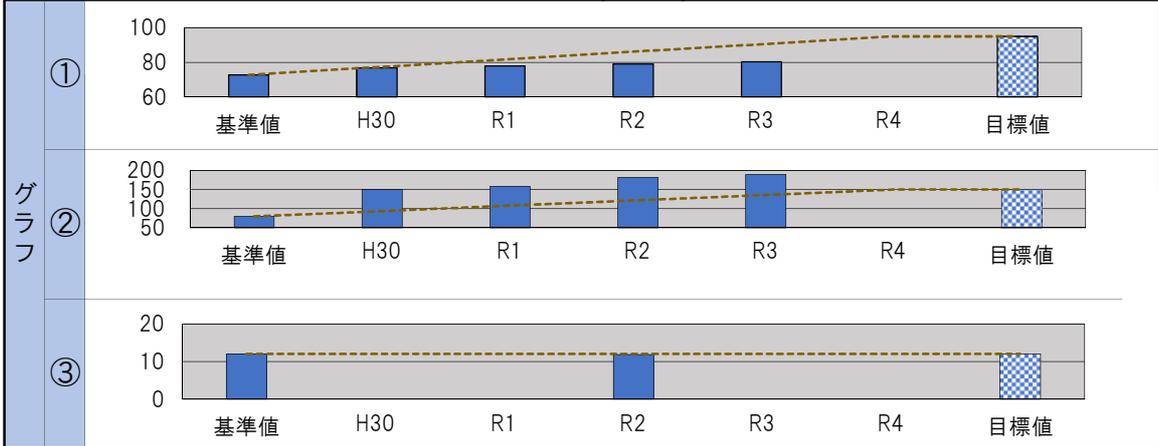
A			
↑ 成果指標 ↓		Bb 前回	Cb 今回
D			
	d	← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離なし			

Plan 2 快適にくらす

施策11 総合的な住宅対策に取り組みます

1. 成果指標による評価

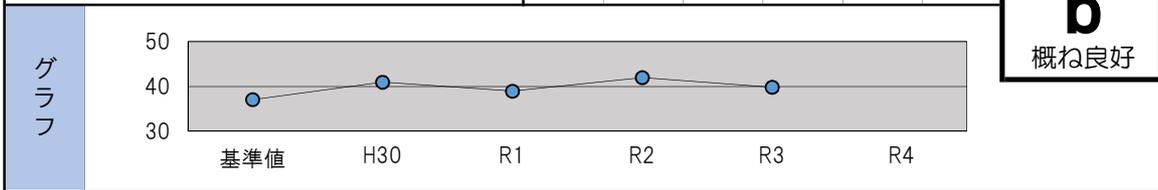
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 住宅の耐震化率 (%)	↗	72.8	76.8	77.9	79.1	80.2		95.0	C
② 木造住宅解体工事費の補助件数 (件)	↗	80	150	158	182	189		150	A
③ 空き家率 (%)	→	12.1	-	-	11.9	-		12.1	-



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	37.1	41.0	39.0	42.0	39.9		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・近年、全国各地で大規模な地震が発生し、この地方においても巨大地震発生が危惧されており、被害想定から死者数および経済被害等を減少させるため、建物の耐震化が、緊急かつ優先的に取り組む重要な課題となっている。
・全国的に空き家の増加が社会問題となっており、本市においても年々空き家に関する相談・苦情が増えている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

①	旧基準で建てられた木造住宅の解体は進んでいるが、高齢者のみの世帯などの改修等が伸び悩んでいるため、前年度現状値から1.1ポイントの増加にとどまり、目標値に向けて低調に推移している。
②	広報や町内回覧等の周知により、補助を利用する市民が増えたため、引き続き現状値が目標値を上回っている。
③	本年度の現状値なし(5年ごとの調査)。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

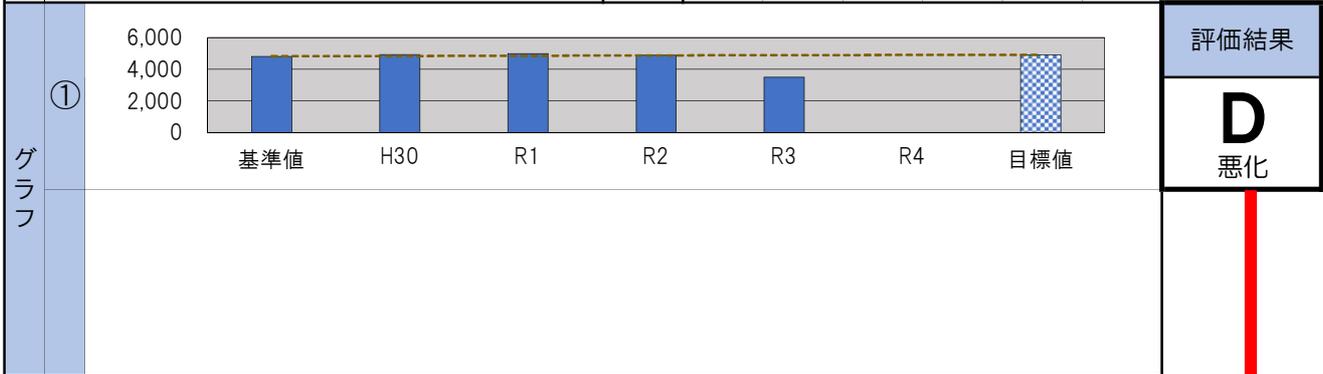
6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	Bb 前回・今回
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離なし	

Plan 2 快適にくらす

施策12 公共交通網の整備を進めます

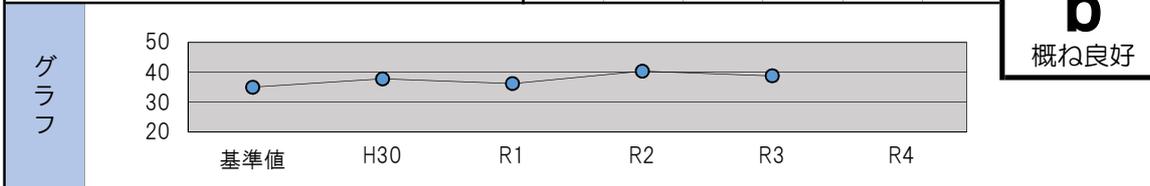
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市内バスの年間利用者数（千人）	↗	4,816	4,930	4,979	4,893	3,505		4,900	D



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	35.0	37.8	36.2	40.3	38.8		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言等により年間を通じて外出の自粛等があり、公共交通機関の利用を控える傾向が見られる。
- ・高齢化の進展や免許返納者の増加などにより、公共交通の必要性が高まっている。
- ・バス乗務員の確保が難しくなっており、経費の増大や事業規模の縮小も予測される。

5. 施策評価
Db

4. 指標の分析

成果指標	① 緊急事態宣言等による外出の自粛等のため、前年度現状値から1,388人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		体感指標	
成果指標	A	a	Aa
	↑		
↓			今回
D			

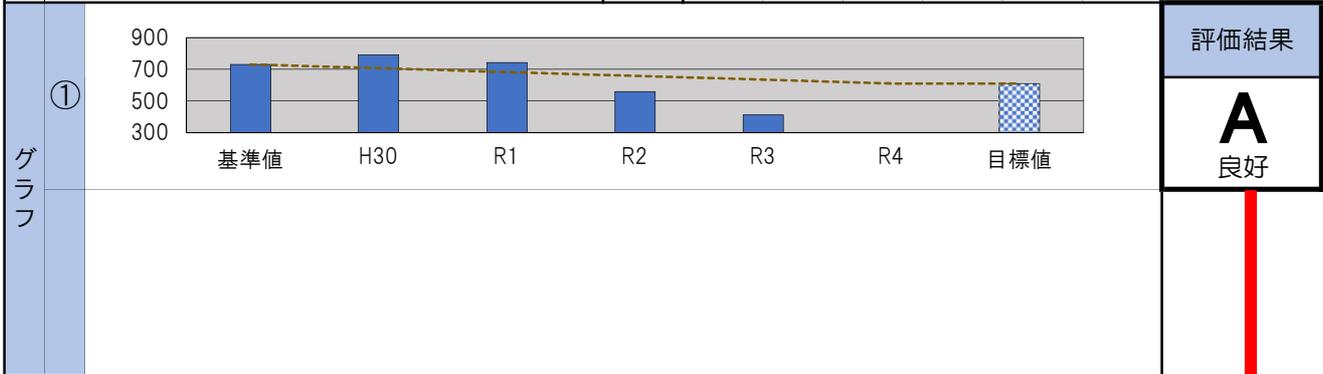
成果指標と体感指標の乖離なし

Plan 2 快適にくらす

施策13 歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します

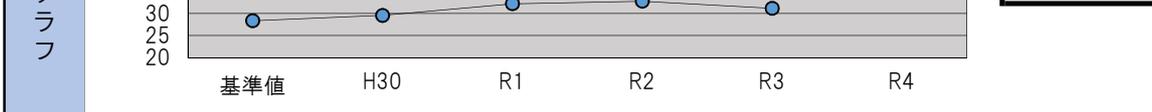
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 歩行者・自転車関連の交通事故件数（件）	↓	730	790	742	558	412	610	A	



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	28.3	29.5	32.1	32.7	31.1	b 概ね良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・自転車は、日常生活における身近な移動手段やサイクリング等のレジャー手段として多くの人に利用されている。
 ・近年では、健康や環境への意識の高まりを背景に自転車のニーズが高まっている。一方で交通事故が減少傾向にあるなか、自転車対歩行者の交通事故は横ばいの状況であり、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道路交通法の改正により、自転車の歩道通行可能要件の明確化や自転車運転による危険防止のための講習に関する規定等が整備された。また、自転車による交通事故の減少と、自転車事故による被害者の保護等を目的として、各地の自治体で自転車条例の制定が増えつつある。
 ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	① 当初計画通り事業の進捗が図れたため、前年度現状値から146人減少し、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A			
↑	成果指標		
↓			
D			
			d ← 体感指標 → a
			成果指標と体感指標の乖離なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
人優先の安全で安心な歩行空間の整備	放置自転車対策事業	地域交通課	○	★★	★★
	歩道拡幅事業(光明寺二ツ屋線)	道路課	○	★★	★★★
	歩道拡幅事業(五城森上線)	道路課	○	★★★	★★
	歩道拡幅事業(岩倉街道線)	道路課	○	★★	-
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★★	★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★★	★★
	一宮駅周辺道路バリアフリー整備事業	道路課	○	★★	-
	横断歩道橋保全事業	維持課	○	★★★	★
	通学路安全対策事業	地域交通課	○	★★	★★
	通学路安全対策事業	学校教育課	○	★★★	-
安全で快適な自転車利用環境の整備	駐輪場管理事業	地域交通課	○	★★	★★
	自転車通行空間整備事業	地域交通課	○	★★★	-
危険箇所の減少	緊急輸送道路無電柱化事業	道路課	○	★★★	-
	交通安全施設整備事業	地域交通課	○	★★★	★★
	生活道路交通安全対策事業	地域交通課	○	★★★	★★★
	不法占用物撤去事業	道水路管理課	○	★★★	-
	フェンス設置事業	治水課	○	★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

10. 今後の方向性・改善計画

人との接触を低減するための自転車通勤・通学の一層の促進を図ることが求められるなか、一宮市自転車活用推進計画に基づき自転車通行空間の整備を進めていくなど、引き続き警察・関係機関と連携を図り各事業を推進する。

主担当部・課

建設部 道路課

関係課

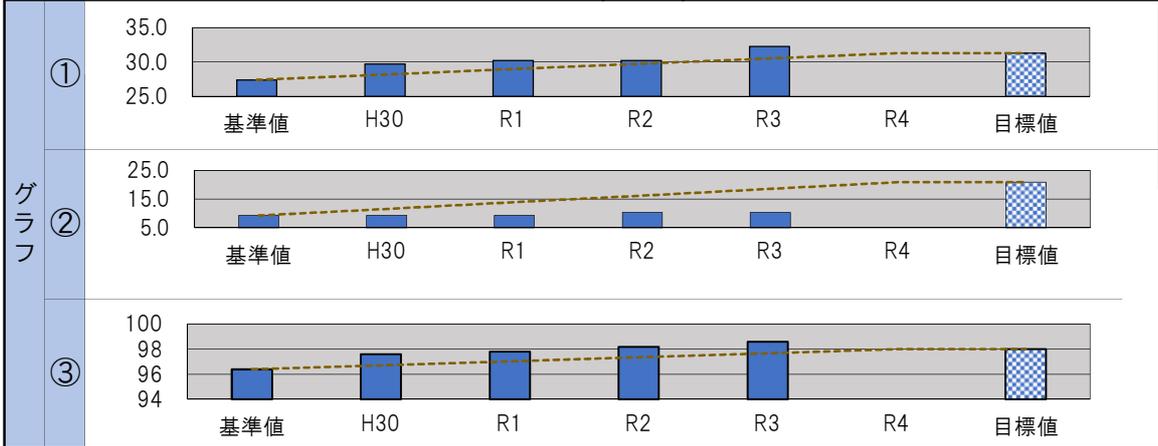
地域交通課、維持課、道水路管理課、治水課、学校教育課

Plan 3 安全・安心を高める

施策14 災害に強い社会基盤整備を進めます

1. 成果指標による評価

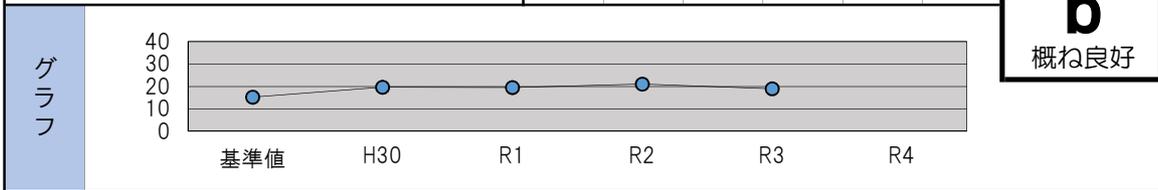
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 基幹管路の耐震化率 (%)	↗	27.4	29.7	30.2	30.2	32.3		31.3	A
② 主要橋梁の耐震化率 (%)	↗	9.3	9.3	9.3	10.4	10.4		20.9	C
③ ガス管の耐震化率 (%)	↗	96.4	97.6	97.8	98.2	98.6		98.0	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	15.3	19.7	19.6	21.1	19.0		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・近年は豪雨などによる甚大な被害も各地で発生しており、今後も気候変動の影響による豪雨頻度の増加や台風の強大化等、自然災害のさらなる大規模化が懸念されている。
- ・防災に係るハード面の整備についての関心がより高まっている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

①	近年の人口増減や水需要の状況により基幹管路の見直しをR2年度に行った結果、基幹管路の対象管路に変更が生じたため、現状値を1.9ポイントの上方修正を行い、また、R1年度からR2年度までの継続工事が完了したため、0.2ポイント上昇して目標値を上回った。
②	橋梁保全事業との調整を図りながら事業を進めているため、前年度実績値から横ばいに推移している。
③	巨大地震等の自然災害発生に備え、ガス管の耐震化を進めた結果、前年度現状値から0.4ポイント上昇しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス		
A ↑ 成果指標 ↓	Bb 今回	Ba 前回
D	d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし		

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
災害時の交通路等の確保	木曾川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★	★★
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★	★★
	ブロック塀等撤去費補助金交付事業	建築指導課	○	★★	★★
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★★★	★★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★★★	★★
	橋梁保全事業	維持課	○	★★★★	★
	緊急輸送道路無電柱化事業	道路課	○	★★★★	-
	下水道管改良事業	下水道整備課	○	★★★★	★★
災害時の飲料水の確保	水道管改良事業(基幹管路)	上水道整備課	○	★★★★	-
	水道管改良事業(応急給水栓)	上水道整備課	○	★★	★★
	佐千原浄水場第2ポンプ棟建設事業	施設保全課	○	★★★★	★
公共建築物および避難所の整備	防災施設充実強化事業	危機管理課	○	★★★★	★★★★
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★	★★★★
浸水被害の軽減	総合治水対策事業(河川改修)	治水課	○	★★	★
	総合治水対策事業(流域貯留施設等)	治水課	○	★★★★	★
	総合治水対策事業(河川等情報関連)	治水課	○	★★★★	★★
	総合治水対策事業(洪水ハザードマップ)	治水課	○	★★★★	★★
	総合治水対策事業(雨水ポンプ場修繕改築)	治水課	○	★★★★	-
	緊急農地防災事業	治水課	○	★★★★	★★
	県営農業農村整備事業(排水路・排水機場)	治水課	○	★★	★
	生活関連治水事業	治水課	○	★★	★★
	暫定遊水地築造事業	治水課	○	★★★★	-
	公共下水道雨水管渠整備事業	下水道整備課	○	★★★★	★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

--

10. 今後の方向性・改善計画

成果指標は概ね良好に推移しており、各種事業を引き続き推進し改善していく。なお、主要橋梁の耐震化率については、横ばいではあるものの、R2年度に設計業務委託を行っており、今後、指標は上昇する見込みである。また、市管理橋梁は法令に基づく点検・診断を行い、その結果に基づく措置を行うことにより、常時良好な状態を保っている。

主担当部・課

総合政策部 危機管理課

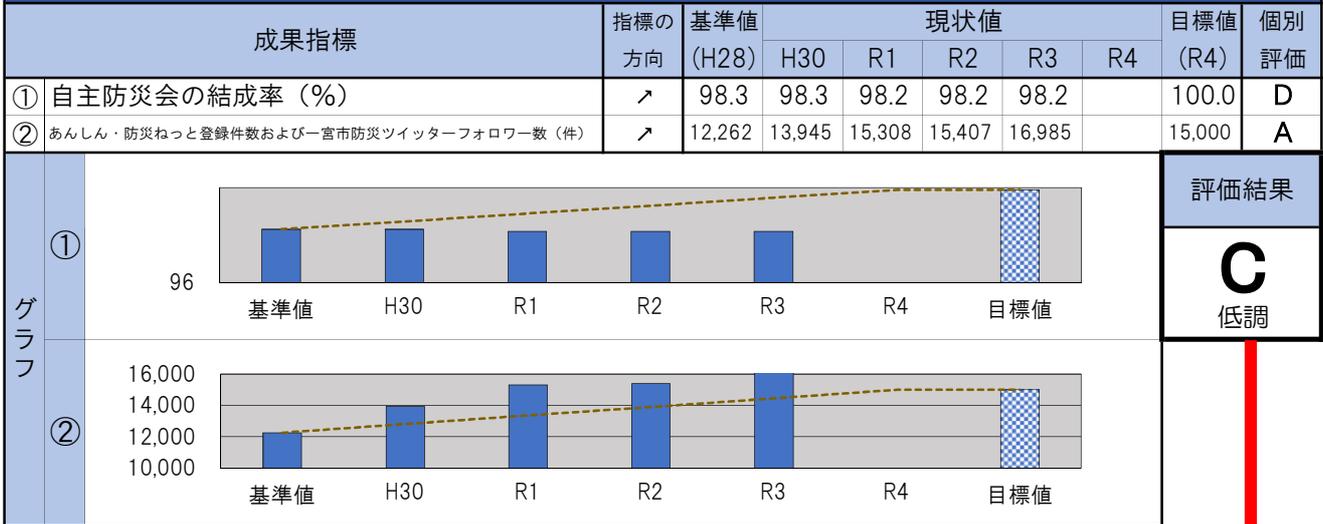
関係課

公園緑地課、建築指導課、維持課、道路課、治水課、
上水道整備課、下水道整備課、施設保全課

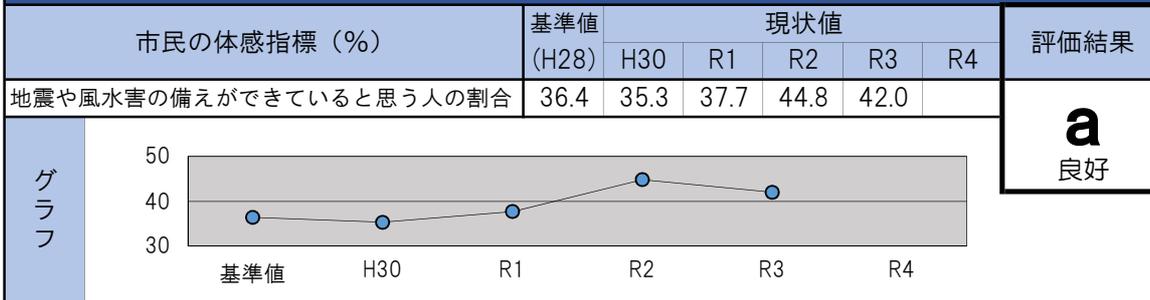
Plan 3 安全・安心を高める

施策15 自主防災力の向上を図ります

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・近年は豪雨などによる甚大な被害も各地で発生しており、今後も気候変動の影響による豪雨頻度の増加や台風の強大化等、自然災害のさらなる大規模化が懸念されている。
- ・防災への関心は高まっており、連区や町内会、企業では防災訓練や防災教育などが行われている。

5. 施策評価

Ca

4. 指標の分析

成果指標	① 自主防災会は100%に近い高い割合の町内会で結成されており、今年度は引き続き基準値を下回ったものの、未結成の町内会数は横ばいである。
市民の体感指標	② あんしん・防災ねっとの登録者と防災ツイッターのフォロワー数を合わせて、前年度現状値から1,578件増加しており、引き続き目標値を達成している。 防災意識の高まりにより、基準値との比較において、5.6ポイント上昇している。また、前年度現状値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。



Plan 3 安全・安心を高める

施策16 火災や救急に対する体制の強化を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 消火・消防訓練実施率(町内会単位)(%)	↗	72	80.8	80.1	79.1	0.2	80.0	D	
② 応急手当の実施率(%)	↗	67.2	73.4	71.6	69.7	74.6	75.0	A	

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
消防・救急体制が整っていると思う人の割合	48.2	54.2	54.0	53.2	53.1	b 概ね良好	

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・消火・消防訓練実施率の低下については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、町内会が実施する消火器取扱訓練が行われなかったため減少した。

5. 施策評価

Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、町内会の消火器取扱訓練や防火防災訓練を実施することができなかったことにより、基準値より大幅に低い水準となり、目標値から乖離しているが、やむを得ない結果と思われる。
	②	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、救命講習の受講人数を制限したが、前年度現状値より4.9ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。現在までの受講者数の累積及び通信指令課員による口頭指導が成果に反映されたと思われる。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

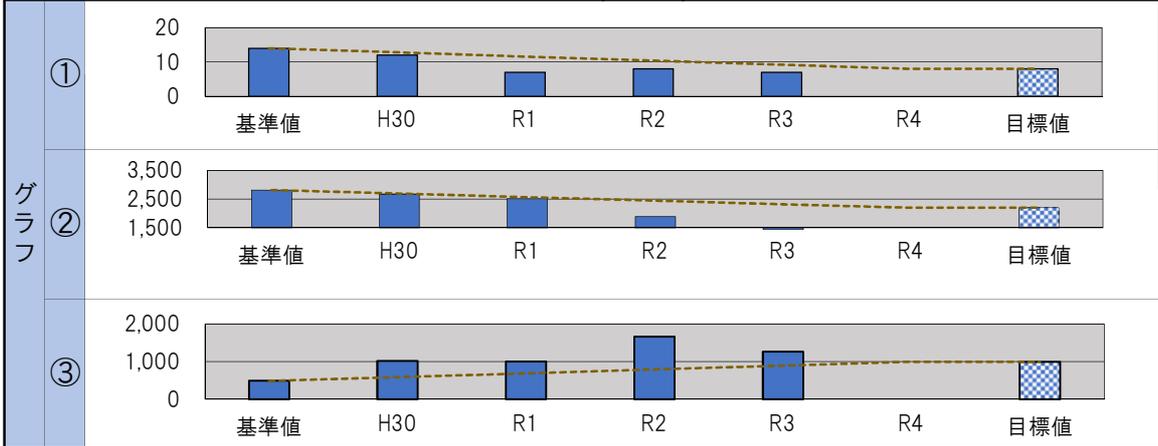
A ↑成果指標 ↓				
			Bb 前回	
			Cb 今回	
D				
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離なし				

Plan 3 安全・安心を高める

施策17 交通事故を減らす取組を進めます

1. 成果指標による評価

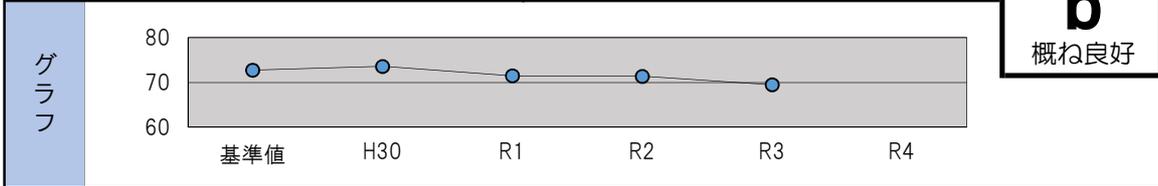
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 交通事故による死者数 (人)	↓	14	12	7	8	7	8	A	
② 交通事故による負傷者数 (人)	↓	2,816	2,679	2,510	1,887	1,436	2,200	A	
③ 運転免許証を自主返納した高齢者数 (人)	↑	489	1,022	1,005	1,672	1,268	1,000	A	



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
交通事故の危険を感じたことがある人の割合	72.8	73.6	71.5	71.4	69.5	b 概ね良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・愛知県は平成30年まで16年連続で交通事故による死者数が全国最多であり、令和2年については令和元年に引き続き、全国最多を返上することができたが、依然として多くの方が交通事故で命を落としており、極めて厳しい状況が続いている。
- ・愛知県は自動車の保有台数が全国1位ということもあるが、交通ルールを守らないために発生する事故が多いという実状がある。
- ・愛知県における交通事故死者数のうち、高齢者の被害者が半数以上を占めており、その中でも歩行中、自転車乗車中の道路横断中の事故が多発している。

5. 施策評価
Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、交通安全教育の普及等を行ったため、前年度現状値から1人減少しており、引き続き目標値を達成している。
	②	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、交通安全教育の普及等を行ったため、前年度現状値から451人減少(改善)しており、引き続き目標値を達成している。
	③	i-バス回数券等・交通安全啓発品の配布などの支援を行ったことや、支援事業の周知を行ったため、前年度現状値から404人減少しているものの、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

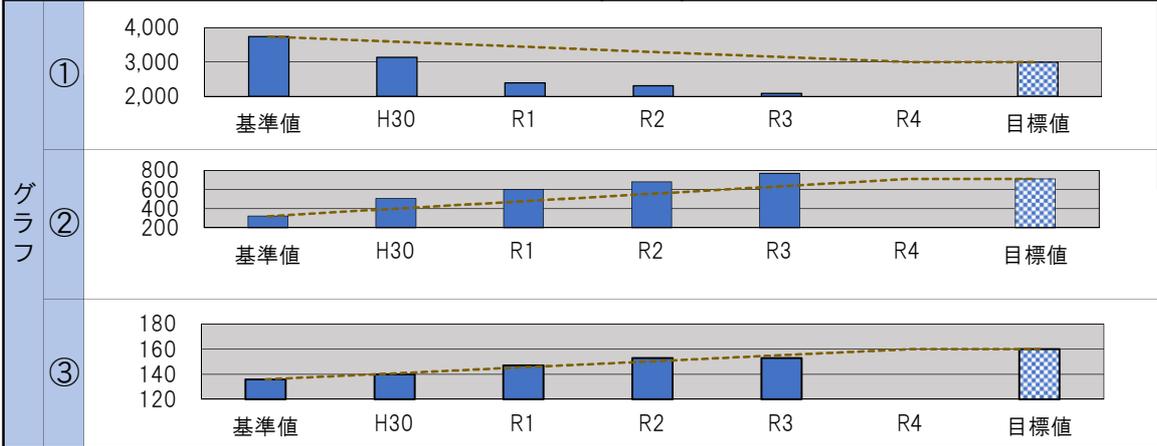
6. 進捗状況マトリクス	
A	Ab 前回・今回
↑ 成果指標 ↓	
D	
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

Plan 3 安全・安心を高める

施策18 防犯対策を進めます

1. 成果指標による評価

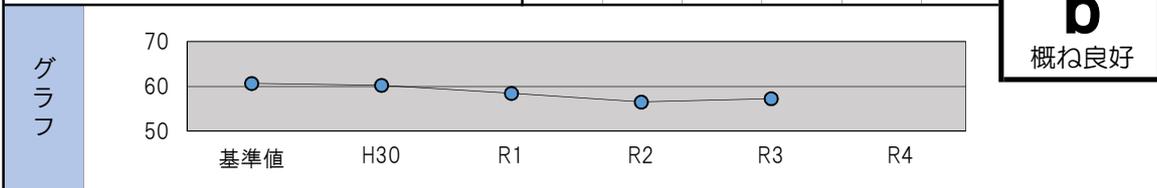
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 犯罪発生件数（件）	↘	3,741	3,139	2,390	2,310	2,079		3,000	A
② 町内会等が設置した防犯カメラの台数（台）	↗	322	506	600	681	769		710	A
③ 自主防犯パトロール隊の結成数（団体）	↗	136	140	147	153	153		160	B



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
犯罪への不安を感じたことがある人の割合	60.7	60.3	58.5	56.6	57.3		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・愛知県の刑法犯認知件数は県民・警察・行政が一体となった取組を推進したこと等により、平成15年のピーク時に比べ令和2年には5分の1以下まで減少している。
 ・一宮市の刑法犯認知件数も地域住民・警察・行政の取組や協力等により、平成16年のピーク時から減少し、令和2年には4分の1以下となっている。しかしながら本市は県内の警察署別での認知件数が、毎年ワーストランキングの上位となっており、この要因として、高速道路のインターチェンジや鉄道といった交通機関が利用しやすいことに加え、住宅、自転車等にカギを掛ける習慣がない市民が多くいることが考えられる。

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、地域防犯教育の普及等を行ったため、前年度現状値から231件減少しており、引き続き目標値を達成している。
	②	町内会等が行った防犯カメラの設置費用の一部補助や、防犯カメラの維持費の定額補助、補助事業の周知を行ったため、前年度現状値から88台増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	自主防犯パトロール隊に登録した個人、団体へ防犯資器材等の貸与や事業の周知を行ったため、前年度現状値から横ばいであるものの、目標値に向けて概ね良好に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A			
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

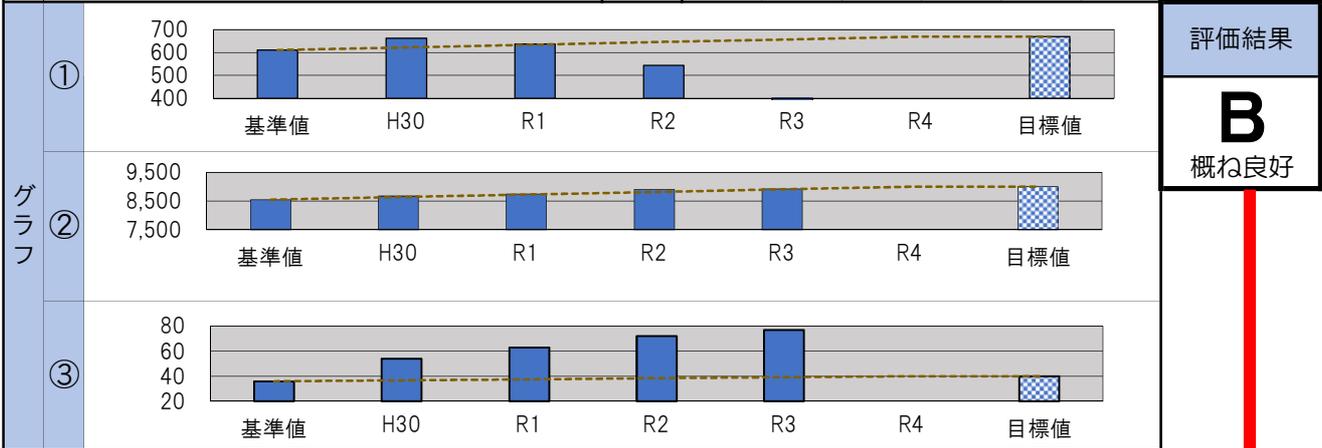
5. 施策評価
Ab

Plan 4 活力を生み出す

施策19 既存産業や次世代産業の育成を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 中小企業振興融資の助成件数 (件)	↗	611	663	637	544	300		670	D
② 法人数 (事業所)	↗	8,550	8,672	8,746	8,899	8,923		9,000	A
③ 奨励金を交付した企業の新增設の累積件数 (事業所)	↗	36	54	63	72	77		40	A



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市の企業は活力があると思う人の割合	7.3	9.3	9.9	9.5	10.1		b 概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大が続く局面に於いて、売上・収益の急減に直面した地域企業に資本や流動性の面で大きなストレスがかかっており、資金需要が一時的に増大している。
- ・ウッドショックや半導体供給不安などの要因も喫緊の課題である。
- ・については、政府による金利ゼロ・信用保証料ゼロの緊急コロナ対策融資制度が発足した。

5. 施策評価 **Bb**

4. 指標の分析

①	他の融資制度(政府による緊急コロナ対策:ゼロ・ゼロ融資)利用が増えた為、前年度現状値から244件減少し、基準値を下回り、目標値から一時的に乖離している。
②	コロナ禍に於いて、資金調達の多様化や業態の転換が一気に進むんだ。並行してテレワーク・在宅ワーク等の新しい働き方も浸透。それらを契機に新規事業への事業拡大や独立開業を検討していた個人からの創業で前年度値より24事業所増加する結果となった。目標値に向けて良好に推移している。
③	コロナ禍においても好調な業種などが継続して設備投資を行ったため、前年度現状値から5事業所増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

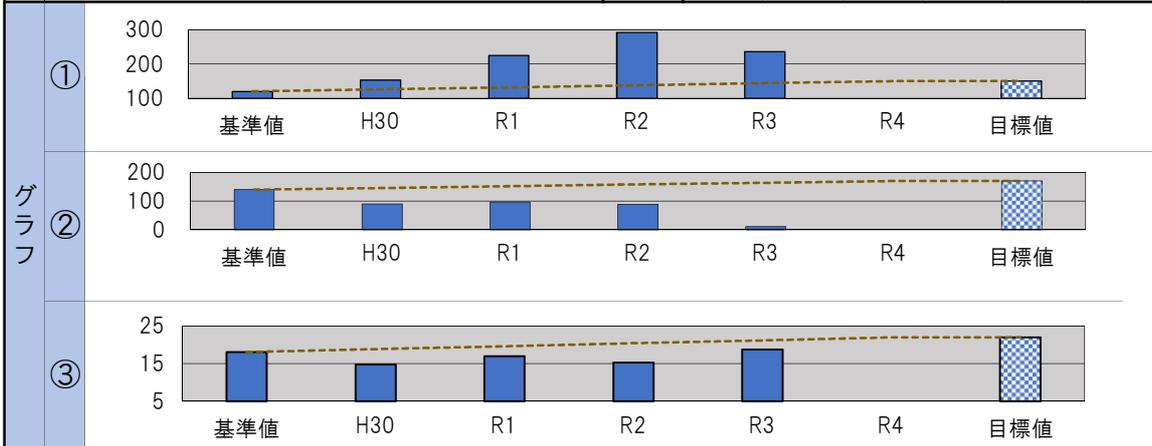
A			
↑		Bb	
成果指標		前回・今回	
↓			
D			
	d	← 体感指標 →	a
	成果指標と体感指標の乖離		
	なし		

Plan 4 活力を生み出す

施策20 意欲を持って働けるよう就労支援を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 就職支援フェア来場人数(人)	↗	120	153	225	292	236		150	A
② 離職者職業訓練の助成件数(件)	↗	140	90	97	89	12		170	D
③ 市内の企業で働いている60歳以上の高齢者の割合(%)	↗	18.1	14.8	17.0	15.3	18.8		22.0	C

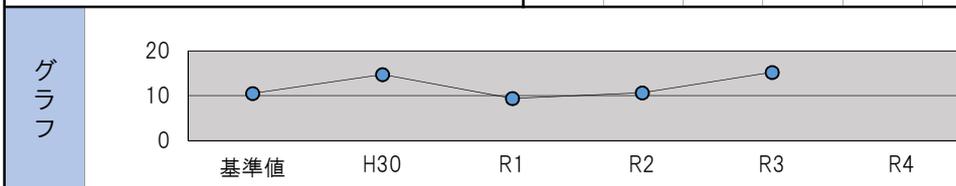


評価結果

C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
就労支援を必要とする人への支援がなされていると思う人の割合	10.5	14.7	9.4	10.6	15.2		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルス感染拡大が続く局面に於いて、有効求人倍率もオイルショック時の下落幅を45年ぶりに更新し、直近の2021年6月時では1.13ポイントにまで落ち込む結果となった。
- ・しかしながら、雇用調整助成金等に代表される政府の雇用安定化策が功を奏し、リーマンショック後ほど有効求人倍率は低下していない。
- ・完全失業者数の動向では、直近の2021年6月時206万人で17か月連続での増加。
- ・就業者数に於いては、2019年に付けたピーク時の6,800万人から直近の2021年6月時の6,692万人まで落ち込んだるが、直近ではコロナ後の新常态を見据え増加傾向に転じている。

5. 施策評価

Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染拡大防止措置により、来場者数が前年度現状値から56人減少しているものの、引き続き目標値を達成している。
	②	前年度に決定している対象者の給付を終えたら事業終了となる為、現状値から77件減少している。
	③	前年度現状値から3.5ポイントの上昇にとどまっております、目標値に向けては低調に推移しているが、コロナ後も高齢者人材の持つスキルの活用は底堅く推移していくと考えられる。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	
	d	a
A		
↑		
Cb		
前回・今回		
↓		
D		

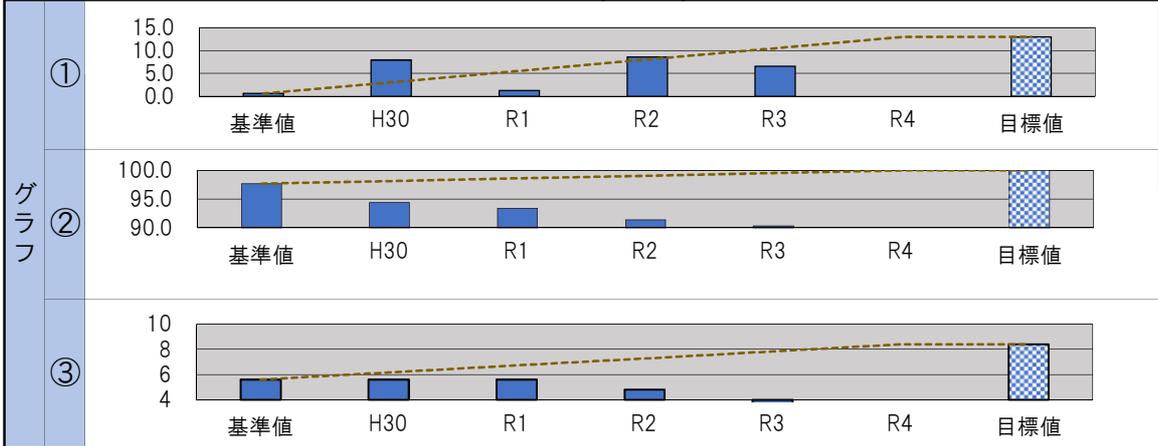
成果指標と体感指標の乖離なし

Plan 4 活力を生み出す

施策21 女性の活躍できる環境をつくります

1. 成果指標による評価

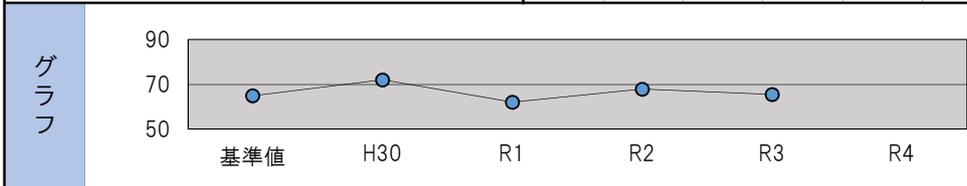
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 育児休業取得率（男性）（％）	↗	0.6	7.9	1.3	8.6	6.6		13.0	B
② 育児休業取得率（女性）（％）	↗	97.7	94.4	93.4	91.4	90.3		100	D
③ 就職を希望する女性の就職率（％）	↗	5.6	5.6	5.6	4.8	3.2		8.4	D



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
男女差なく働けると感じている人の割合	65.0	72.1	62.2	67.9	65.6		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・近年、女性の就業率（15～64歳）は上昇傾向にあり、共働き世帯数も年々増加している。
- ・平成27年8月に「女性活躍推進法」が成立し、女性の活躍に対する機運が高まってきている。
- ・長時間労働の是正を始めとした「働き方改革」や平成29年10月に改正された「育児・介護休業法」等により、仕事と家庭の両立支援が求められている。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用や就業者数は激減したものの、少しずつ回復しつつある。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

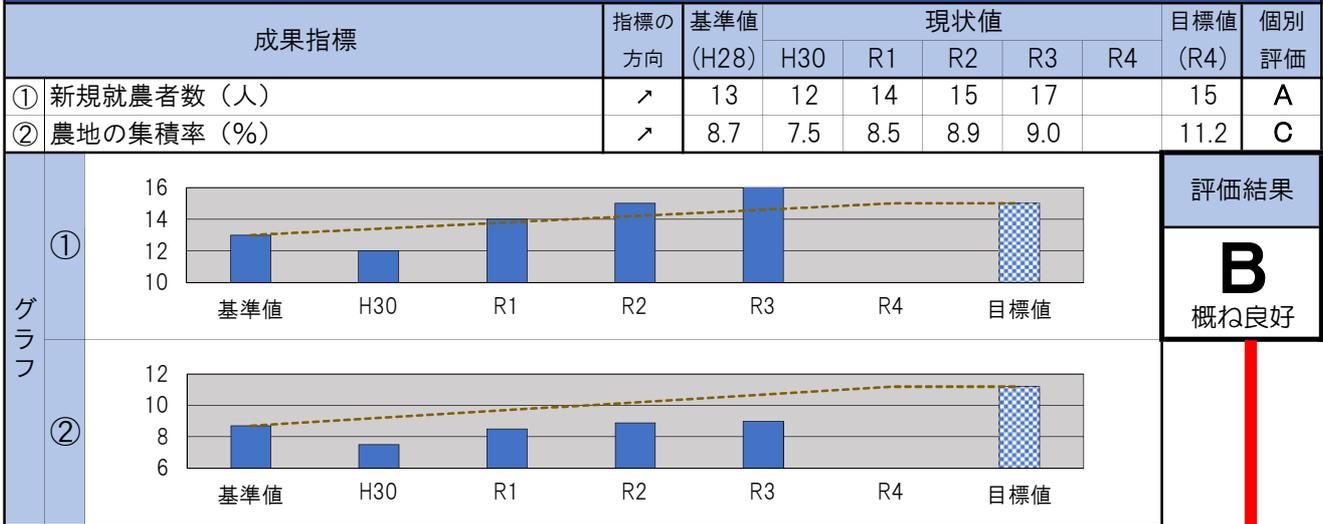
成果指標	①	企業の育児休業制度の規定は規模が小さいほど未整備な傾向にあり、中小企業の多い本市では安定して高い水準とはならず、前年度現状値から2.0ポイント低下したが、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	②	本市は中小企業が多く人手不足により多忙で取りづらいということが育児休業取得率低下の要因だと考えられ、前年度より1.1ポイント低下しており、依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
	③	コロナの影響により、雇用が減少するなか相談件数は増加したため、前年度現状値から1.6ポイント低下しており、依然として基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	
D	Cb 前回・今回
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

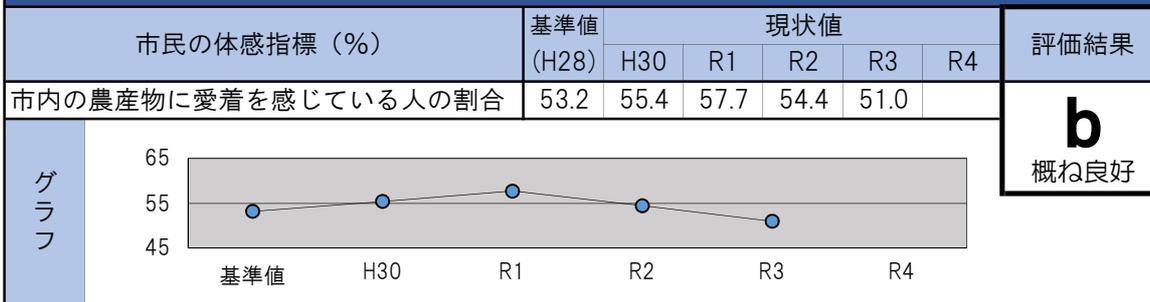
Plan 4 活力を生み出す

施策22 魅力があり持続的発展性のある農業を支援します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・水田地帯では、直播による作期の分散、機械の更新により省力化を図ることで規模を拡大、経営の安定を図っており作業効率の悪い住宅地の水田は敬遠される。
- ・多くの初期投資が必要な稲作での新規参入は難しく、また、畑作(野菜)での参入においても、まとまった農地が少ないことから園芸施設を利用するなど、面積あたりの収益率を高める必要があり新規参入は限定される。
- ・国による各種支援策については、農村地帯や中山間地に主眼を置いたものが多く都市近郊の比較的小規模の農業は置き去りになっている。
- ・安価な海外農産物の流入が、国産農産物の市場に影響を与えている。
- ・急速な開発による優良農地の減少により営農意欲の減退が進んでいる。

5. 施策評価

Bb

4. 指標の分析

成果指標	① 農業塾卒塾生や家族後継者の就農により、前年度実績値から1人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

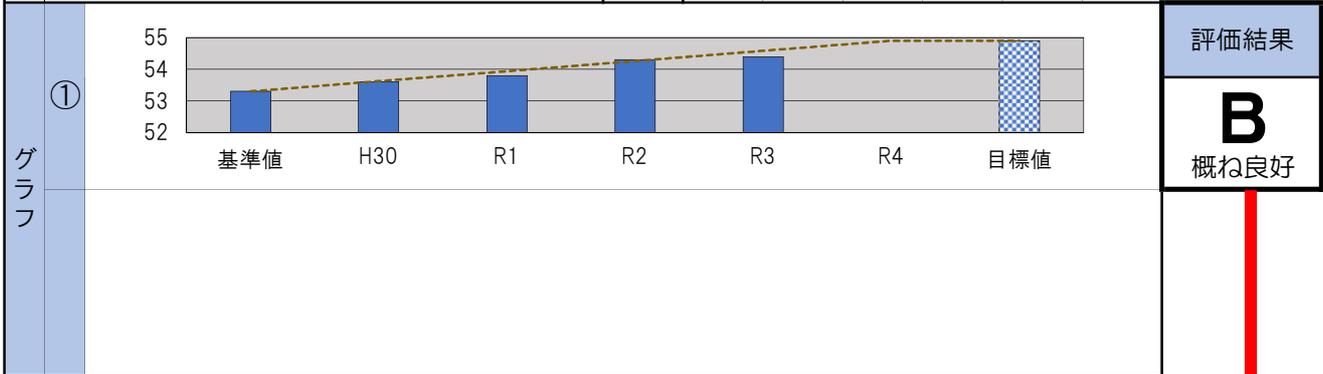
A					
↑			Bb		
成果指標			前回・今回		
↓					
D					
	d	←	体感指標	→	a
	成果指標と体感指標の乖離				
	なし				

Plan 4 活力を生み出す

施策23 幹線道路の整備を進めます

1. 成果指標による評価

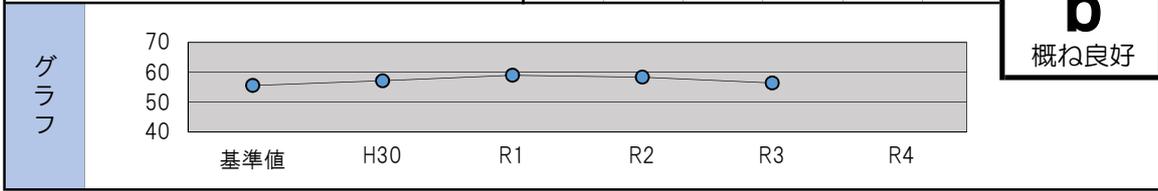
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市(周辺部)の都市計画道路の整備割合(%)	↗	53.3	53.6	53.8	54.3	54.4		54.9	B



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
幹線道路が整備されていると思う人の割合	55.6	57.1	59.0	58.4	56.4		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・毎年のように全国的に大規模な自然災害が多発しており、災害時の迅速な救援活動や物資の運搬、その後の復旧に欠かせない緊急輸送道路のネットワーク強化が求められている。
- ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。
- ・道路ストックの老朽化が深刻になっており、定期的な点検による補修など効率的な道路管理が課題となっている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	① 当初計画通り事業の進捗が図れたため、前年度現状値から0.1ポイント上昇しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス	
A ↑ 成果指標 ↓ D	Ab 前回
	Bb 今回
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
幹線道路の新設	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名岐道路)	都市計画課	○	★★★★	★★★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(西尾張IC)	都市計画課	○	★★★★	-
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名鉄尾西線高架化)	都市計画課	○	★★★★	★
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★★★	★★★★
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★★★	★★
	幹線道路整備事業(木曾川古知野線)	道路課	○	★★★★	★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(萩原多気線)	道路課	○	★★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(北尾張中央道)	道路課	○	★★★★	★★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(新濃尾大橋)	道路課	○	★★★★	★
	国・県と連携した幹線道路整備促進事業(名古屋江南線)	道路課	○	★★★★	★★
幹線道路の保全	幹線道路舗装改良事業	道路課	○	★★	★
	橋梁保全事業	維持課	○	★★★★	★
幹線道路の改良	歩道拡幅事業(光明寺二ツ屋線)	道路課	○	★★	★★★★
	歩道拡幅事業(五城森上線)	道路課	○	★★★★	★★
	歩道拡幅事業(岩倉街道線)	道路課	○	★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画

R3年度以降も目標の達成に向け引き続き関係機関と連携を図り各事業を推進する。

主担当部・課
建設部 道路課

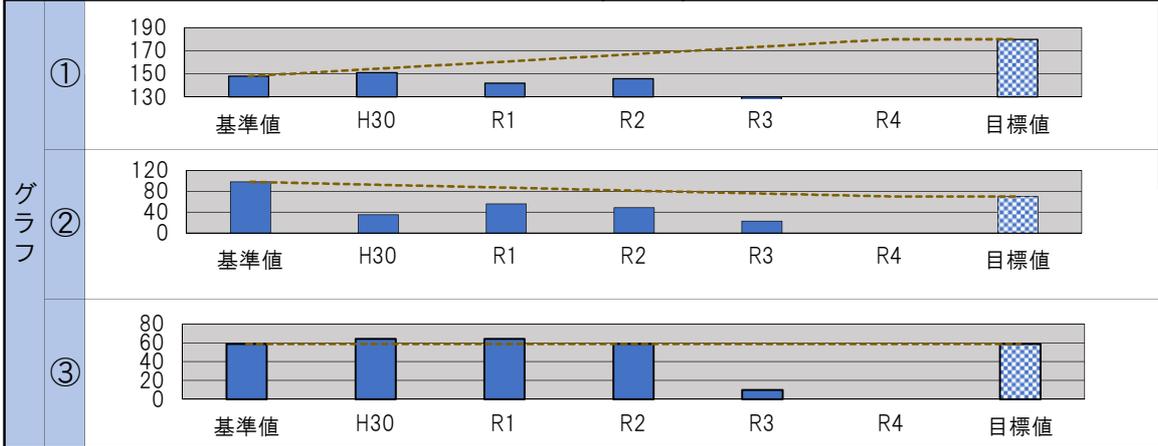
関係課
都市計画課、維持課

Plan 5 未来の人財を育てる

施策24 子どもから青少年まで健全に育つ環境をつくりま

1. 成果指標による評価

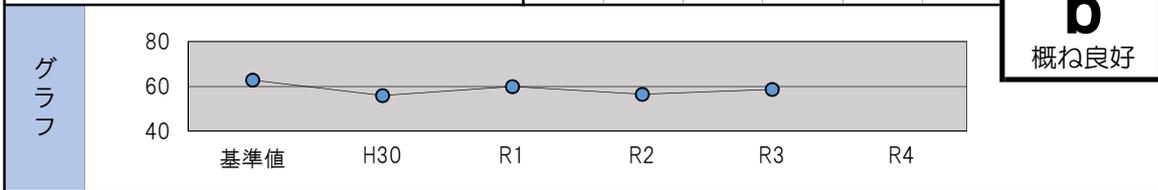
成果指標	指標の方向	基準値(H28)	現状値					目標値(R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 子ども・若者総合相談窓口の相談者数(人)	↗	148	151	142	146	127	180	D	
② 初発型非行の検挙人数(人)	↘	98	35	56	48	23	70	A	
③ 子ども会事業の実施数(回)	→	59	64	64	59	10	59	D	



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値(H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
子どもが社会性を身につけていると思う人の割合	62.9	56.0	60.0	56.6	58.8	b 概ね良好	



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・市民のライフスタイルや価値観の多様化、プライバシー意識の高まりなどにより、地域のつながりが希薄化し、地域の子どもの育てる力が低下している。
- ・スマートフォンやインターネット等の普及により簡単に有害な情報を手に入れられるようになり、見知らぬ他人との接触機会が生じるなど、未成年の非行や犯罪被害に多大な影響を及ぼしている。
- ・核家族化に少子化、疑似体験などの高度な情報化、SNSなどのコミュニケーションツールの浸透により、子どもたちが実際の体験活動を通して他者との交流を深める機会が少なくなっている。

5. 施策評価
Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症拡大防止により、相談者が窓口に来所できない状況が一定期間あったため、前年度現状値から19人減少しており、引き続き基準値を下回り、目標値から乖離している。
	②	地域や学校、警察と連携した市民運動や啓発活動が浸透しているため、前年度現状値から25人減少し、引き続き目標値を達成している。
	③	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種事業を開催中止にしたことにより、前年度現状値から49回減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

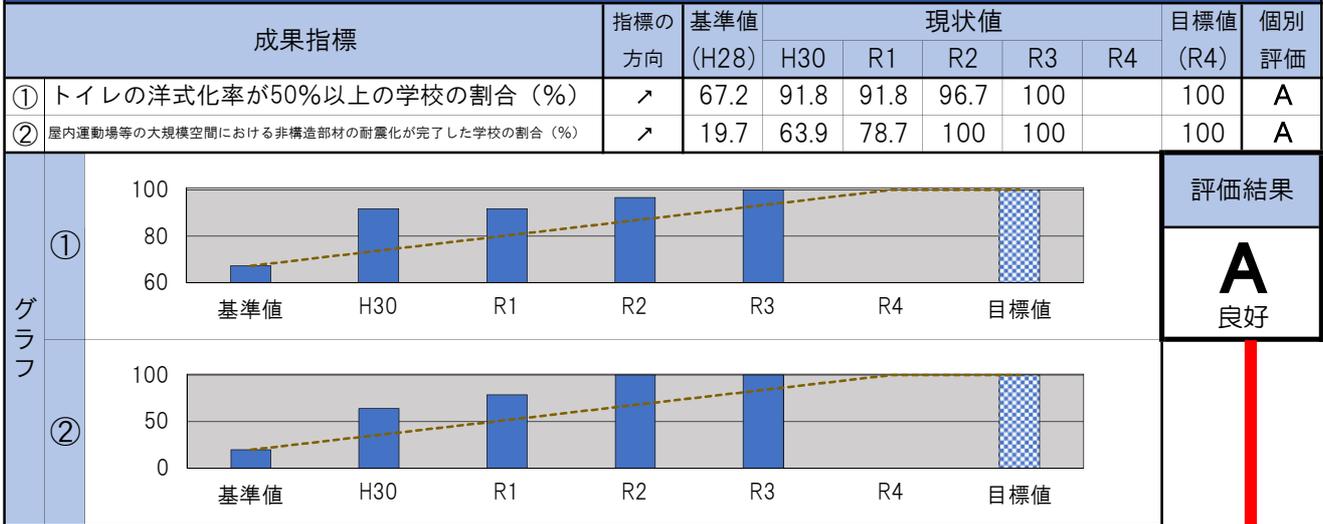
6. 進捗状況マトリクス

A			
↑ 成果指標 ↓		Bb 前回	
D		Cb 今回	
	d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離なし			

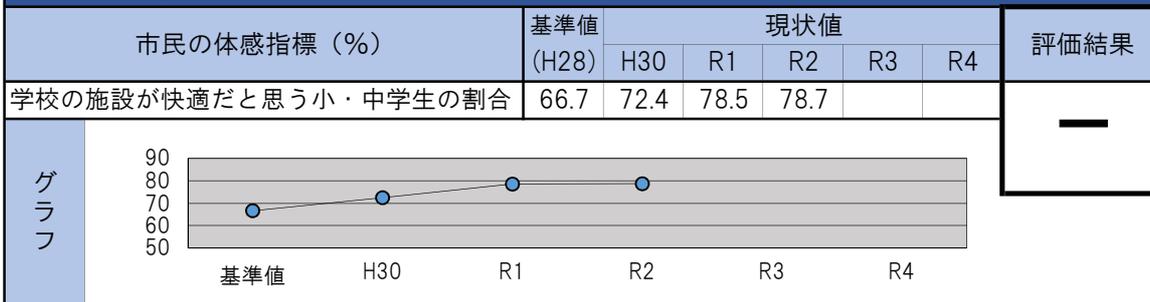
Plan 5 未来の人財を育てる

施策25 学校教育施設を整備します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・家庭において洋式トイレが主流になっている現状を踏まえ、洋式化率の向上が強く求められている。
- ・近年の猛暑などから、県内他市町村においても空調設備の整備が進んでいる。
- ・学校施設について、効率的な老朽化対策による長寿命化の推進が求められている。

5. 施策評価

A—

4. 指標の分析

成果指標	① 小学校2校においてトイレの洋式化を実施したため、前年度現状値から3.3ポイント上昇し、目標値を達成している。
市民の体感指標	② 屋内運動場等の大規模空間における非構造部材の耐震化が全校完了したため、引き続き目標値を達成している。 調査を行わなかったため、本年度の現状値なし。

6. 進捗状況マトリクス

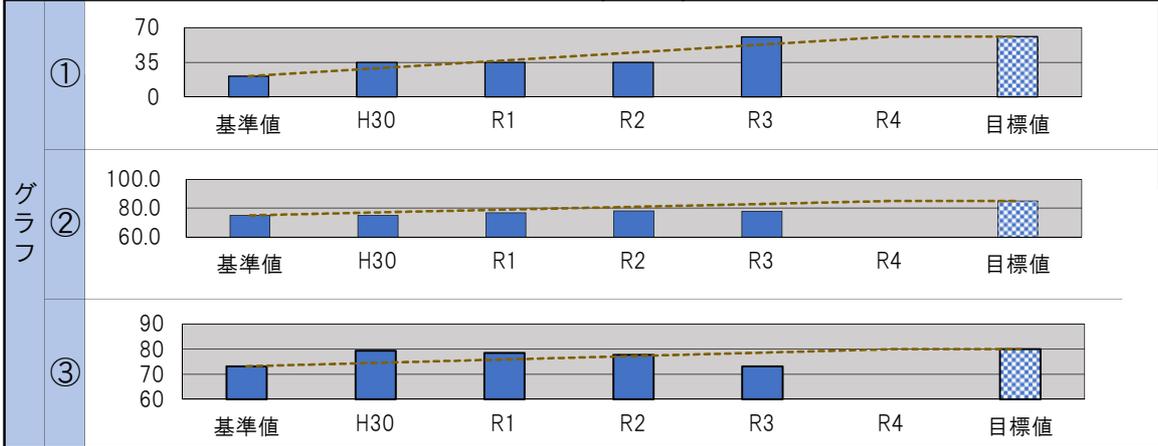
			Aa 前回
↑ 成果指標			
↓ D			
	d ←	→ a	
成果指標と体感指標の乖離 なし			

Plan 5 未来の人財を育てる

施策26 特色ある教育活動を実施します

1. 成果指標による評価

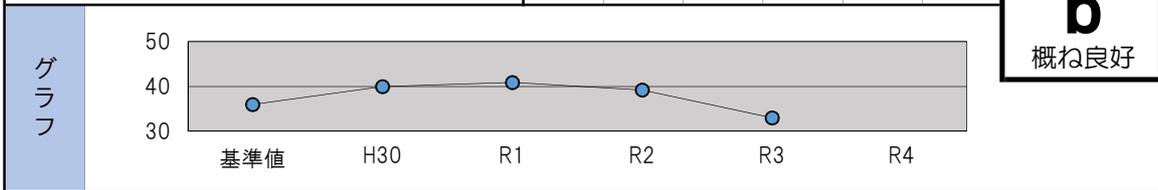
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① プログラミング教育の実施校数 (校)	↗	21	35	35	35	61		61	A
② 教員の情報機器活用研修の履修率 (%)	↗	75.0	75.0	76.8	78.2	78.0		85.0	C
③ 英語テストで8割以上正解できた児童の割合 (%)	↗	73.2	79.3	78.5	77.8	73.2		80.0	C



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
特色ある教育活動が行われていると思う人の割合	36.0	40.0	40.9	39.3	33.0		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・学習指導要領の改訂により、令和2年度から小学校でのプログラミング教育の必修化、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の導入など、情報教育のより一層の充実が求められている。また、情報活用能力が言語能力などと同時に学習基盤となる資質・能力と位置付けられたため、教職員も教育の情報化に対応していく必要がある。
 ・学習指導要領の改訂により、小学校では令和2年度から5・6年生において外国語が教科として全面実施されるなど、英語学習の必要性が年々高まっている。

5. 施策評価
Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	全校にPepperが配置されたため、プログラミング教育が実施されるようになり、目標値を達成した。
	②	昨年度は新型コロナウイルスの影響で集合型の研修を行うことができなかったため、研修の履修率は横ばいである。本年度はすでに多くの研修が行われており、履修率は上昇する見込みである。
	③	昨年度に比べて数値は下落しているが、新型コロナウイルスに伴う臨時休校の影響も考慮すると、平成21年度から教育課程特例校の指定を受け、英語活動を継続してきた積み上げもあり、目標値に向けて概ね良好に推移していると判断する。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	Bb 前回・今回
D	
d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし	

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
未来に生きる力の育成	正確かつ必要な情報通信技術(ICT)獲得のための教育の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★
	英会話指導講師・英語指導講師派遣事業	学校教育課	○	★★	★
家庭・地域社会・学校の連携強化	学校運営協議会の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★
	魅力あふれる学校づくり推進事業	学校教育課	○	★★	★★
教員の指導力の向上	訪問研修アドバイザー派遣事業	学校教育課	○	★★	★★
	ステップアップ研修事業	学校教育課	○	★★	★★★★
笑顔で登校できる学級・学校づくり	不登校対策推進事業	学校教育課	○	★★	★★★★
	いじめ対策推進事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★
	学級生活調査委託事業	学校教育課	○	★★	★
	心の教室相談員配置事業	学校教育課	○	★★	★★
	一宮市スクールカウンセラー配置事業	学校教育課	○	★★	★★
	スクールソーシャルワーカー配置事業	学校教育課	○	★★	★
	特別支援協力員配置事業	学校教育課	○	★★★★	-
	教育支援センター運営事業	学校教育課	○	★★★★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画

小学校では新学習指導要領が完全実施され、プログラミング教育が本格実施、小学校英語は教科となったため、今後一層、目標達成に向けて引き続き各事業を推進していく。

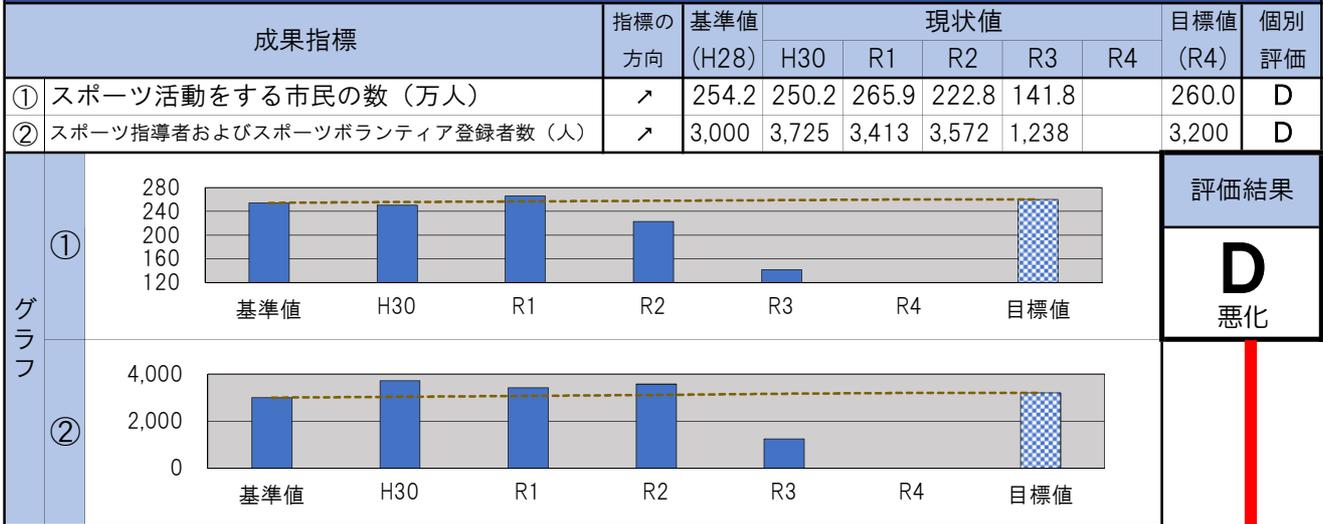
主担当部・課
教育部 学校教育課

関係課
—

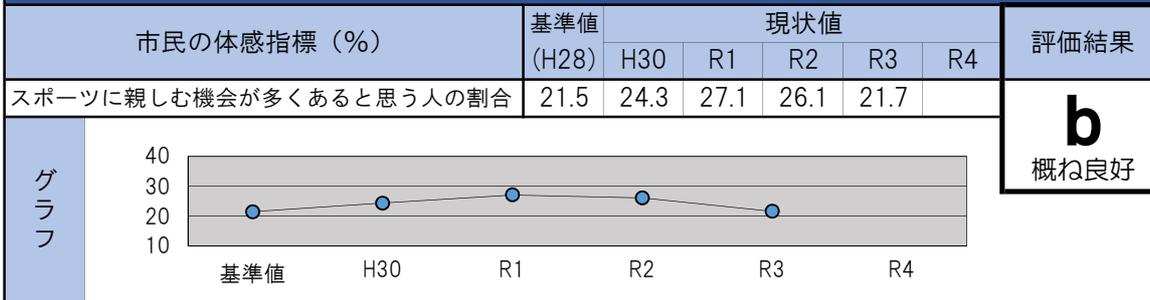
Plan 5 未来の人財を育てる

施策27 する・みる・ささえるスポーツ活動を支援します

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

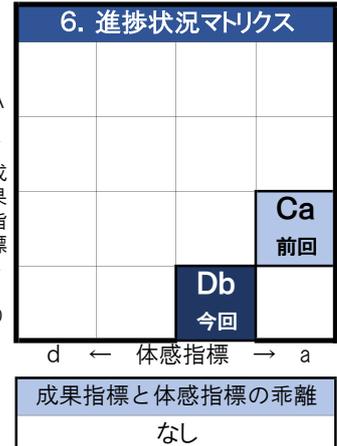
- 平成27年10月に国民の健康増進を目的にスポーツ庁が設置され、子どもの体力向上、国民のスポーツライフ、競技力の向上などスポーツ振興に取り組んでいる。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、東京五輪は史上初の1年延期となった。1年を経ても終息の見通しは立たず、緊急事態宣言が出ているなか首都圏などで無観客開催になった。国レベルの対策でも国民の感染拡大への不安は消えず、開催中止などを求める世論はやんでいない。
- 徹底した感染防止対策をすることが、困難なスポーツ活動(競技)は多い。スポーツイベント開催時に、参加者の検査やワクチン接種の確認が難しいなか、開催に伴う感染拡大への不安は多い。

5. 施策評価

Db

4. 指標の分析

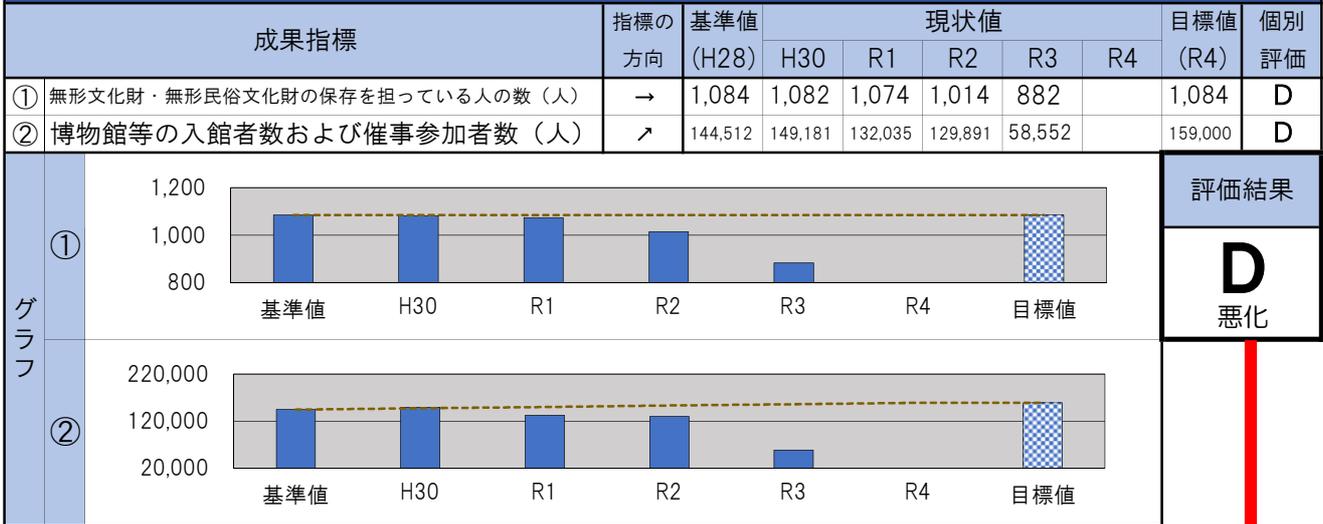
成果指標	① 令和2年1月からの施設予約システムにおける利用者数の集計方法の変更、緊急事態宣言などに伴う施設休業(又は利用時間短縮)、感染不安からの利用控えなどのため、前年度現状値から81万人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
成果指標	② 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、スポーツイベント、審判・指導者講習会などが中止となったため、前年度現状値から2,334人減少しており、基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。



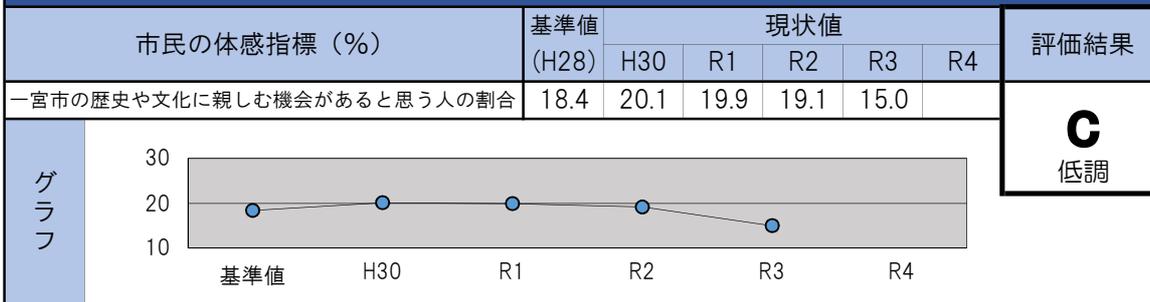
Plan 5 未来の人財を育てる

施策28 歴史・文化に親しめる環境を整えます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言に伴う措置が特に大きく影響した。
- ・博物館等では、33日間の臨時休館、展覧会・ワークショップ等の催事や貸館や美術教室等の中止により、指標数値が大きく減少した。
- ・文化財関係では、祭礼や民俗芸能の中止が相次ぎ、練習に参加する子供たちの募集ができなかったりで活動が休止状態となった。従来の高齢化や少子化等とともにコロナ禍で保存会の存続の危機を迎えている。

5. 施策評価

Dc

4. 指標の分析

成果指標	①	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、前年度現状値から132人減少しており、目標値から乖離している。
	②	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、前年度現状値から71,339人減少しており、依然として基準値を下回り、目標値から乖離している。
市民の体感指標		新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ4.1ポイント、3.4ポイント低下し、低調に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標			
D ↓ 成果指標		Dc 今回	Db 前回
	d	← 体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある催事の企画とPRの推進	一宮市美術展等開催事業	生涯学習課	○	★★	★
	文化団体への各種事業委託事業	生涯学習課	○	★	★
	民俗芸能発表会事業	生涯学習課	○	-	-
	博物館展示事業	博物館管理課	○	★★★★	★
	博物館管理事業	博物館管理課	○	★	★
	歴史民俗資料館展示事業	博物館管理課	○	★★★★	★
	歴史民俗資料館管理事業	博物館管理課	○	★★	★
	美術館展示事業	博物館管理課	○	★★	★
	美術館管理事業	博物館管理課	○	★★★★	★
	生涯学習出前講座事業	博物館管理課	○	★	-
文化財の計画的な維持管理	指定文化財管理事業	博物館管理課	○	★★★★	★
	文化財保護補助事業	博物館管理課	○	★★★★	★★★★
	民俗芸能伝承推進事業	博物館管理課	○	★★	★
	民俗芸能伝承保存補助事業	博物館管理課	○	★	★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

- ・「一宮市ウォーキングマップ 歩いてのぼそう健康寿命」を大いに活用し、楽しんでいます。
- ・魅力のある企画展が行われるとよいと思う。
- ・簡単、かつ楽しめる歴史についてのイベントを行ってほしい。

10. 今後の方向性・改善計画

感染予防の観点から事業の実施方法を見直しているため参加者数・観覧者数には大きな影響が出ている。博物館等では、代替手段として館内のWi-Fi環境を整備し、映像配信機器を購入するなど、来館者の増加へ結び付けていく。You Tubeや学びネットワークでの配信や、従来の市内全42小学校3年生の社会科授業で企画展「くらしの道具」を令和2年度から各校へのオンライン配信授業を開始している。今後は事業を根本から改めることも検討する。

文化財関係では、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは恒例行事が開催できないが、保存会との連絡を密にし継続して支援してゆく。

主担当部・課
活力創造部 博物館管理課

関係課
教育部 生涯学習課

第7次総合計画 令和3年度 施策評価シート

Management 1

人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策 1

子育て世代に選ばれるまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 直近5年間の人口の社会増減累計 (人)	↗	985	1,803	1,869	2,380	2,368		2,170	A
② 若年層の人口構成比 (%)	↗	16.8	16.0	15.7	15.6	15.4		16.0	C

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市は子育てするのに適したまちだと思う人の割合	46.1	49.6	46.6	48.2	46.4		b 概ね良好

グラフ		評価結果 Bb
-----	--	-------------------

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・日本の総人口は平成20年をピークに減少しているが、愛知県の人口は、平成28年より自然増減が減少に転じたものの、社会増の状況が続いており、総人口は増加が続いている。一宮市においても、社会増が続いているが、自然減が大きく、市の人口は平成24年をピークにゆるやかな減少が続いている。
- ・全国的に若年層での東京圏への転出超過が続いており、一宮市も同様の傾向である。
- ・働き方の変化により、子育て環境の整備が求められている。
- ・全国的に移住対策を行う自治体が多く、競争は激化している。
- ・本市の基幹産業である繊維産業は、安価な輸入品の増大等の影響により規模が縮小傾向にある。

5. 施策評価

Bb

4. 指標の分析

成果指標	① 転入超過を維持することができたため、前年度現状値から12人減少しているものの、引き続き目標値を達成している。
成果指標	② 総人口の減少率以上に若年層人口の減少率が大きかったため、前年度現状値から0.2ポイント低下し、目標値に対して悪化している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			
		Bb 前回・今回	
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
デュークス(DEWKS)に向けた戦略的な情報発信	デュークス(DEWKS)に向けた情報発信事業	政策課	○	★	★
知名度を上げるための事業の展開	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★★★	-
子育て・教育環境のイメージの向上	放課後児童クラブ運営事業	子育て支援課	○	★★★★	★
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	★
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★	★★
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	★★
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	★
	医療的ケア児保育モデル事業	保育課	○	★★★★	-
	放課後子ども教室事業	青少年課	○	★★	★★
	空調設備整備事業	教育部総務課	○	★★★★	★★
	正確かつ必要な情報通信技術(ICT)獲得のための教育の充実事業	学校教育課	○	★★★★	★★★★

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

10. 今後の方向性・改善計画

子育て世代にも選ばれるまちをつくるため、引き続き共働き世帯でも子育てしやすい環境整備を進めるとともに、市の魅力を高め、情報を発信する。
 子育て世代に受け入れられているICT機器を用いた教育を充実させ、学力および人間力の向上に努める。

主担当部・課
 総合政策部 政策課

関係課
 子育て支援課、保育課、青少年課、公園緑地課、教育部総務課、学校教育課

Management 1

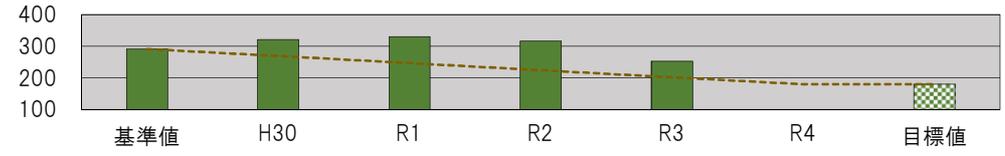
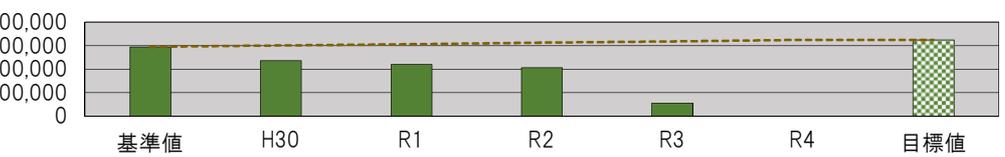
人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策 2

訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつくります

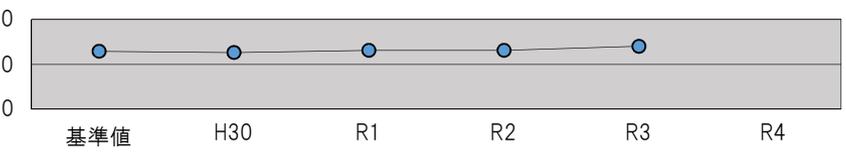
1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 一宮市の認知度 (位)	↓	291	321	330	316	253	180	C	
② 主要観光イベントの来客者数 (人)	↑	2,948,662	2,356,844	2,190,167	2,061,505	555,294	3,245,000	D	

グラフ	①		評価結果 D 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市は魅力があるまちだと思う人の割合	12.9	12.6	13.1	13.1	14.0		b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・全国的に自治体によるシティプロモーション活動は激化している。
- ・基準値の調査対象となる平成27年は、市長の交代や一宮七夕まつり60回記念の”東京ディズニーリゾート・スペシャルパレード”を実施するなど、例年に比べメディアの露出が多かった。
- ・レジャーの多様化により、既存の祭りなどの来客者数は減少傾向にある。
- ・天候やSNSでの影響により来客者数は大きく左右される。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止となり、令和3年度もその影響は続いている。

4. 指標の分析

成果指標	①	市制施行100周年や中核市移行などメディア受けの話題が豊富だったこともあり、前年度現状値から63位と大幅に向上させることができ、目標達成に向かって推移している。
	②	新型コロナウイルスの影響でイベントが軒並み中止のため、前年度現状値から1,506,211人減少している。また、基準値の調査対象となる平成27年のイベントの注目度がとても高かったため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
				Db 前回・今回	
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

Db

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある集客イベントの開催	市制施行100周年記念事業	100周年推進室	○	★	-
	おりもの感謝祭一宮七夕まつり事業	商工観光課	○	-	-
	濃尾大花火事業	商工観光課	○	-	-
	一宮イルミネーション事業	商工観光課	○	★★	★★
	一宮モーニングプロジェクト事業	商工観光課	○	★★	★★
	びさいまつり事業	商工観光課	○	-	-
	萩原チンドン祭り事業	商工観光課	○	-	-
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★★★	★★
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★★★	-
観光情報等の発信	ウェブサイト等の運営事業	広報課	○	★★★★	★★
	いちのみやフィルムコミッション事業	商工観光課	○	★★★★	★★★★
市の新しい魅力発見のための観光資源の活用	フリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)サービス拡大事業	デジタル推進室	○	★★	★
	観光案内所運営事業	商工観光課	○	★	★
	観光協会ウェブサイト事業	商工観光課	○	★★★★	★★
	イベント実施団体等への補助事業	商工観光課	○	★★	★★
	まちなかウォークラブル推進事業	都市計画課	○	★★★★	-
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 市民の意見(アンケート回答者の一部へ意見聴取)

- ・一宮市の魅力と言えば、七夕まつりと、ツインアーチ138だと思えますが、もっと増えるといいと思えます。住むのには、良い所だと思います。
- ・まず、市民が住みやすいまちをつくって下さい。そうすれば、他から訪れてくれると思う。
- ・一宮市は全国にアピールするポイントが無い。地元の人々の街と思う。

10. 今後の方向性・改善計画

各種事業の周知や市観光協会のSNSの活用により、認知度の向上を図る。
実施するイベントの相互の周知や、市公式ウェブサイト上での積極的なPRにより、来客者数の増加を図る。

主担当部・課

活力創造部 商工観光課

関係課

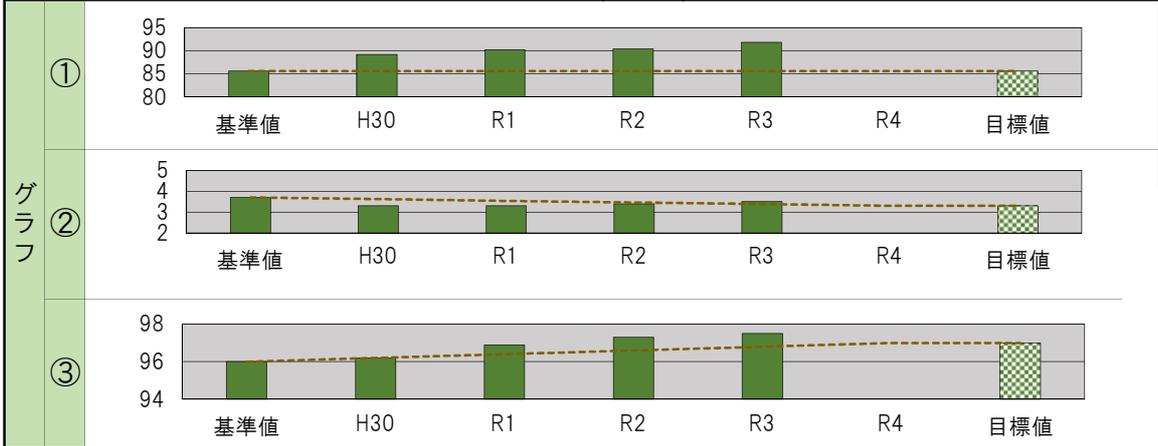
広報課、100周年推進室、デジタル推進室、都市計画課、公園緑地課

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策3 健全な財政運営に努めます

1. 成果指標による評価

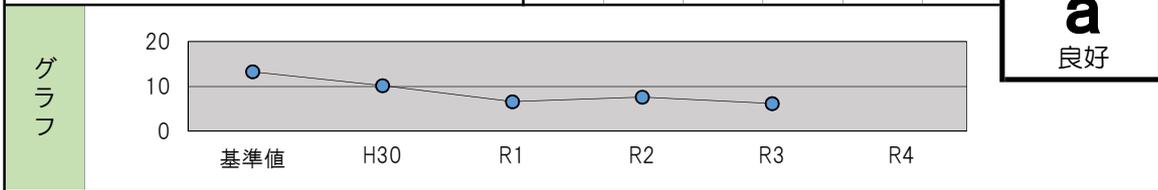
成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 経常収支比率 (%)	→	85.6	89.2	90.2	90.4	91.8	85.6	C	
② 実質公債費比率(3か年平均) (%)	↘	3.7	3.3	3.3	3.4	3.5	3.3	B	
③ 市税徴収率 (%)	↗	96.0	96.2	96.9	97.3	97.5	97.0	A	



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思う人の割合	13.3	10.2	6.6	7.7	6.2		a 良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 2018年に始まった世界経済の減速の中で、日本の経済は内需主導の緩やかな成長が続いている。
- ・ 地方交付税総額が平成24年度以降減少していたが、平成30年度を底に令和元年度からは増加に転じている。
- ・ 合併団体における普通交付税の合併算定替による増額分が段階的に縮減される(本市では平成28年度から5年間かけて縮減)。
- ・ 市税の徴収率は、平成21年度以降は全国的に上昇傾向にあり、滞納残高は着実に減少している。

5. 施策評価
Ba

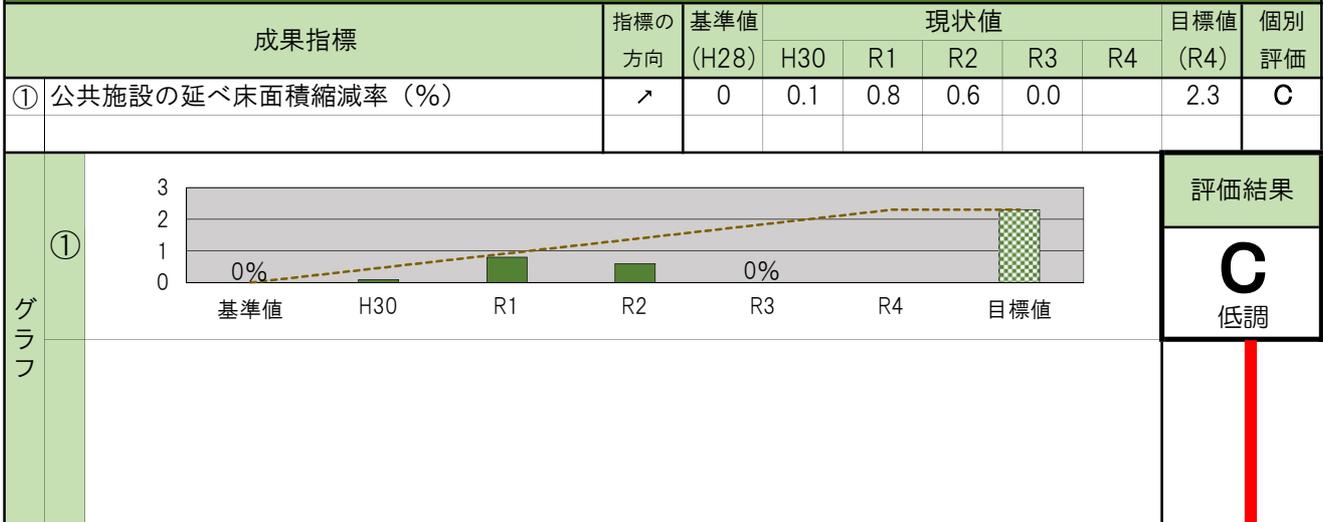
4. 指標の分析

成果指標	①	個人市民税、固定資産税、事業所税など収入の伸びに比べて、扶助費、人件費、繰出金などの支出の伸びが上回ったため、前年度実績値から1.4ポイント上昇(悪化)しており、目標値以下に抑えることができなかった。
	②	法人市民税や個人市民税などの増加に対し、合併特例債などの発行による元利償還金の増加が上回ったため、前年度実績値から0.1ポイント上昇(悪化)したものの、目標値に対して良好に推移している。
	③	令和元年度から導入した納税推進センターによる現年滞納分の早期催告、職員による債権差押や公売等の滞納処分を強化したことにより、前年度実績値から0.2ポイント上昇しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	基準値との比較において、市民ニーズに沿ったサービスが提供できたことにより、7.1ポイント低下(改善)している。	

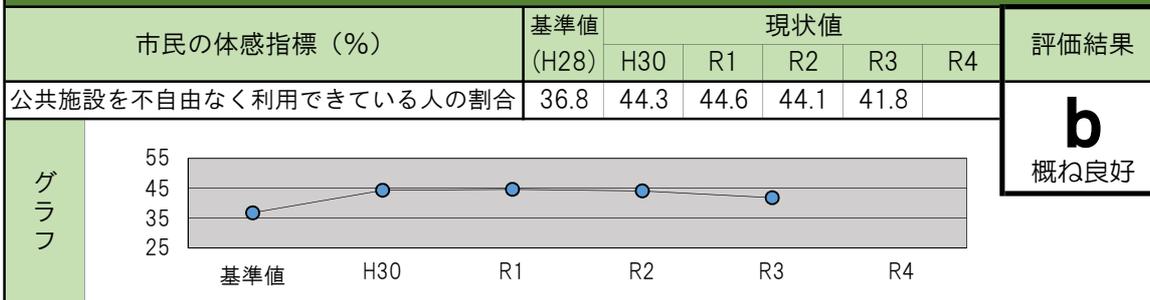
6. 進捗状況マトリクス	
A	
↑ 成果指標 ↓	Ba 前回・今回
	D
	d ← 体感指標 → a
成果指標と体感指標の乖離 なし	

施策 4 公共施設の適切な維持管理に努めます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・平成24年に発生した中央自動車道トンネルの天井板崩落事故がきっかけとなり、高度経済成長期に整備された公共施設が一斉に更新時期を迎えることに対する世間の不安が高まっている。
- ・各自治体は、人口減少により税収の増加が見込めない中で、施設の維持管理経費の縮減、適正配置及び長寿命化への対応等が求められている。
- ・総合管理計画策定の要請(総務省)を受けて、本市では平成28年11月に「公共施設等総合管理計画」を策定し、令和3年3月に公共建築物の個別施設計画として「施設のあり方計画」を策定した。

5. 施策評価

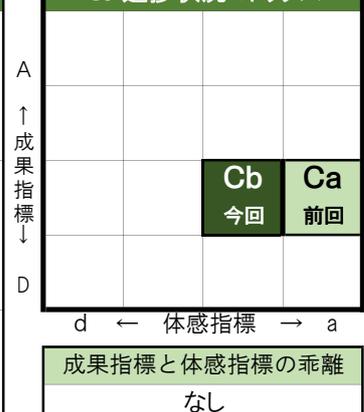
Cb

4. 指標の分析

① 「公共施設等総合管理計画」の策定前から進められていた「いちのみや中央プラザ体育館」(神山公民館、神山いきいきセンターとの複合施設)が完成した。これにより、延床面積が増加したため、前年度現状値から0.6ポイント低下し、目標値に向けて低調に推移している。

市民の体感指標 前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

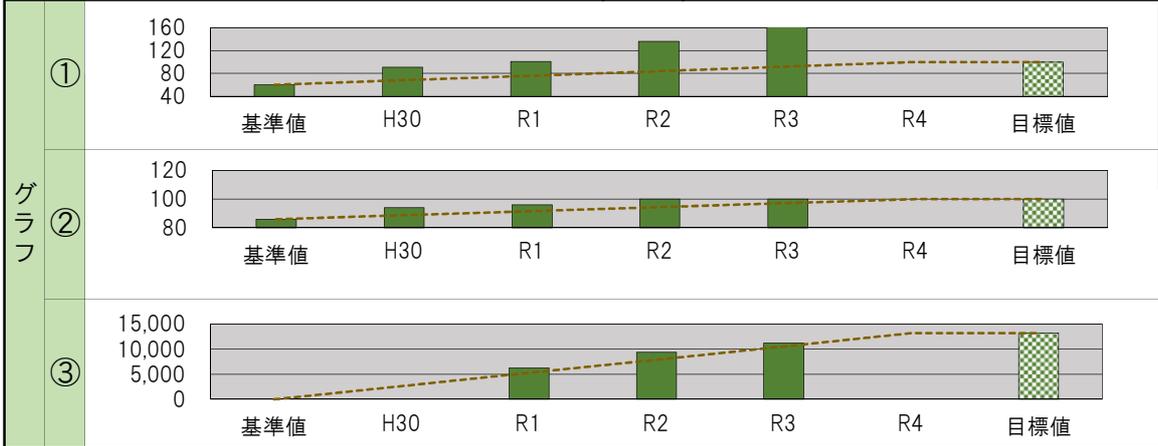
6. 進捗状況マトリクス



施策5 情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① オープンデータ公開件数（件）	↗	60	91	101	136	174		100	A
② いちのみやフリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）アクセスポイント数（か所）	↗	86	94	96	100	100		100	A
③ インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数（件）	↗	0.0	-	6,300	9400	11200		13,200	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思う人の割合	15.3	19.1	18.8	18.8	18.2		b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・官民データ活用推進基本法においてオープンデータの活用を掲げており、オープンデータの利用促進の機運は高まりつつある。
- ・国においても、外国人観光客等が観光・災害時に利用しやすいWi-Fi環境を実現するため、観光・防災拠点への環境整備を推進している。
- ・多様化するライフスタイルに対応した収納方法を確保することで、納税者の利便性を向上させる必要がある。

4. 指標の分析

成果指標	①	令和元年度に目標値を達成し、オープンデータの啓発を継続的に実施したこともあり、今年度はさらに38件増加している。
	②	安定的に稼働しており、引き続き目標値を達成している。
	③	納付しやすい収納方法を確保することで納税者の利便性が向上し、前年度現状値から1,800件増加。目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		前年度現状値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

		Ab 前回・今回	
A			
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価
Ab

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策 6 適切な情報発信を行います

1. 成果指標による評価

成果指標	指標の方向	基準値 (H28)	現状値					目標値 (R4)	個別評価
			H30	R1	R2	R3	R4		
① 市公式ウェブサイトのアクセス件数 (件)	↗	9,864,000	9,123,780	9,666,526	12,064,593	30,213,116		11,840,000	A
② オープンデータ公開件数 (件)	↗	60	91	101	136	174		100	A

グラフ

①

グラフ

②

評価結果

A

良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	現状値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市からの情報を適切に入手できていると思う人の割合	44.1	50.3	51.9	50.1	50.4		a 良好

グラフ

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・インターネットの日常化により、行政情報を得る手段は、ウェブサイトによる検索が一般的になっていることに加え、新型コロナウイルス感染症に関する情報への需要が依然高かったことによる。
- ・若い世代を中心として、SNSを利用した積極的な情報発信が行われている。
- ・官民データ活用推進基本法においてオープンデータの活用を掲げており、オープンデータの利用促進の機運は高まりつつある。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

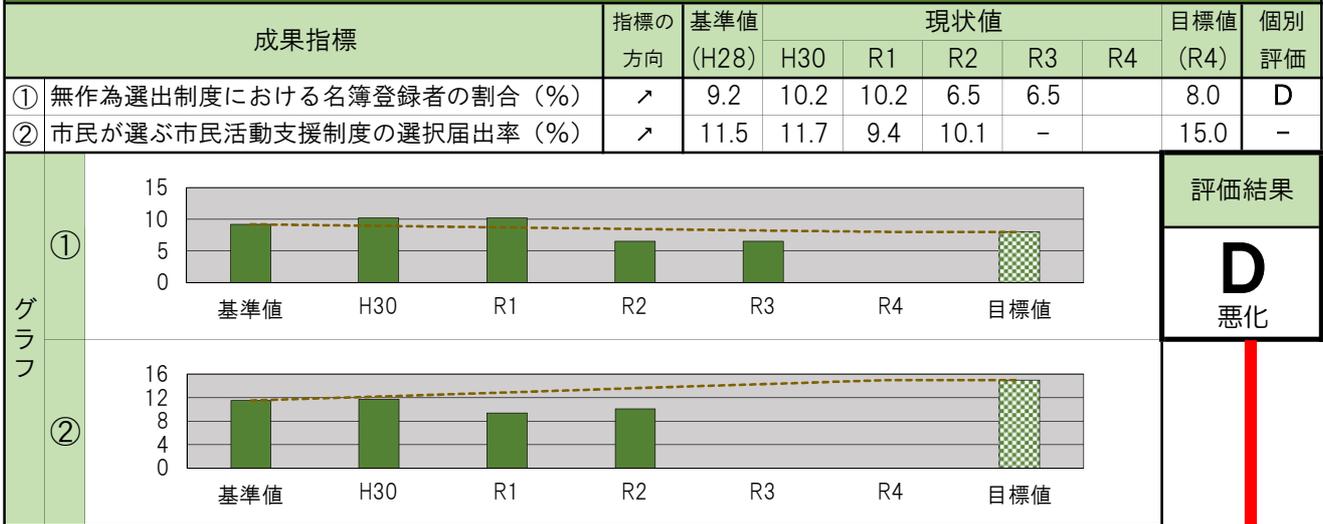
成果指標	① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市民に必要な関連情報を、ウェブサイト上で絶えず公開した結果、前年度現状値から約1,800万件増加し、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	令和元年度に目標値を達成し、オープンデータの啓発を継続的に実施したこともあり、今年度はさらに38件増加している。 CMSの導入や、広報紙に市ウェブサイトの「ページID」を掲載するなど、情報連携を強化したため、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ0.3ポイント、6.3ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

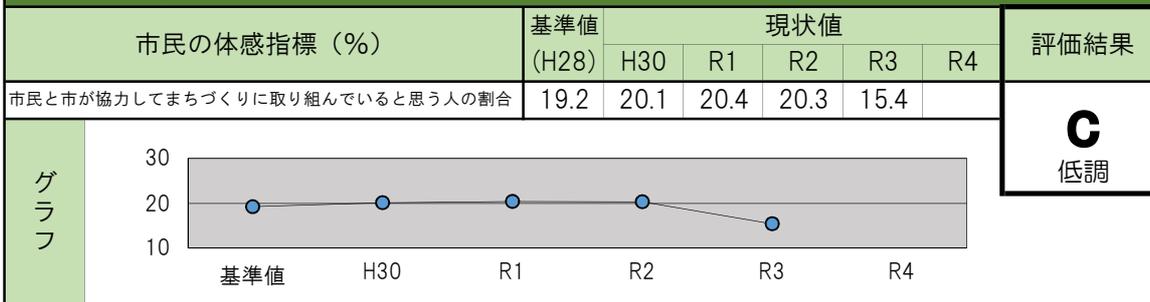
			Aa 前回・今回
↑ 成果指標			
↓ D			
	d	← 体感指標 →	a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

施策7 市民との協働を進めます

1. 成果指標による評価



2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化し、全てを行政サービスで対応することは困難である。
- ・定年退職者等の「能力も時間もある市民」が増えており、彼らの地域での活躍が期待されている。
- ・災害支援等でボランティアやNPOの活動がますます世間に認知され、社会のために役立ちたいと考える若者や市民が増えている。
- ・令和2年度で市民活動支援制度(1%支援制度)が終了し、市民が市政へ参加する機会が減った。
- ・令和2年度はコロナ禍で町内会活動ほか市民活動も制限されていた。

5. 施策評価

Dc

4. 指標の分析

成果指標	① 名簿の更新は2年ごとに実施しており、今回は更新を行わなかったため、前年度の現状値を引き続き当年度の現状値としている。
市民の体感指標	② 令和2年度で事業終了したため、現状値なし。 市民活動支援制度が終了したことや、コロナ禍で市民活動や行政への参加が制限されたため、前年度現状値との比較、基準値との比較において、それぞれ4.9ポイント、3.8ポイント低下し、低調に推移したと推測される。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓			
D		Dc 今回	Db 前回
	d	← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離 なし			

参考 アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際はその手間や費用を考慮して適切な数を抽出し調査を行います。そのため、アンケートの回答結果に誤差が生じます。それを標本誤差といい、次の計算式によって算出できます。

なお、k は信頼率による定数で、一般的に信頼率 95%とすることが多く、その場合 k=1.96 となります。信頼率 95%とは、100 回同じ調査を行えば、95 回はその標本誤差の範囲内に収まるという意味です。

$$\text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

k：信頼率による定数(※)

p：回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k=1.96となる。

例えば、「あなたは携帯端末を持っていますか。」というアンケート調査を、380,000 人の市民の方から無作為に 3,000 人を選んで実施して、n:有効回答数が 1,600 人、「はい」と回答した割合が 82.0%であった場合、M:380,000、p:0.82、k:1.96 を当てはめて計算すると、標本誤差は約 1.88%となります。約±1.88%の誤差を生じることとなりますので、その回答は（95%の確率で）80.12%～83.88%（82±1.88%）の範囲内となります。

(注) 同じ設問を経年的に調査するときなどは、この標本誤差を踏まえて分析する必要があります。本市の行政評価においては、市民の体感指標ごとに標本誤差を考慮した評価および分析を実施しています。